

共同研究  
「国内における障害者による芸術活動の概要」  
報告書

2016年3月



Tokyo University of the Arts

# はじめに

---

本調査は、長年にわたり芸術や福祉の分野でも活動を行ってきた日本財団の「日本財団パラリンピック研究会」と、障害者の芸術活動に関する授業や取組みを推進している東京藝術大学COI「障がいと表現研究」グループによる共同研究である。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた障害者芸術振興策に関する研究および構想設計のための基礎的情報の収集および整理を目的に、美術・音楽・パフォーマンスの3部門を包含する横断的な調査を試みた。

インターネットを通じた情報収集を中心に、一部の個別インタビューを併用した限定的なアプローチではあるが、従来の限られた部門に限定した調査からは導き出されなかった活動の全体観や課題の一部を見出すことができた。

本調査結果と考察を踏まえ、今後は障害者芸術振興に資する調査研究の深掘りや体制づくりの強化が期待されるところである。

# 目次

---

はじめに	……1
1. 目的と概要、統計	
1.1. 目的と概要	……4
1.2. 統計	……5
2. 美術	
2.1. 概要	……8
2.2. 活動一覧	……9
2.3. 詳細	……14
3. 音楽	
3.1. 概要	……21
3.2. 活動一覧	……22
3.3. 詳細	……25
4. パフォーミングアーツ	
4.1. 概要	……30
4.2. 活動一覧	……31
4.3. 詳細	……36
5. 一考察	……41
あとがき	……43

# 1. 目的と概要、統計

---

# 1.1. 目的と概要

---

## ■ 目的

2020年東京パラリンピックに向けた障害者芸術振興策に関する研究および構想設計のための基礎的情報の収集および整理。

## ■ 概要

国内の障害者による主な芸術活動の主体および事業を、美術、音楽、パフォーマンスアーツの3部門で各30件程度リストアップする。

## ■ 調査内容

インターネットによる基礎情報リサーチと個別インタビュー等による詳細リサーチを行った。

### 【基礎情報リサーチの主な調査項目】

類型、名称、主な対象障害、対象者、活動形態、活動内容、実施団体、開催地、開催時期/頻度、開始年度、特徴

### 【詳細リサーチの主な調査項目】

目的、活動内容、対象、関係者、場所/設備、成果・実績、広報、資金繰り、特徴、課題や今後の展望

## ■ 調査期間

2015年9月～2016年1月

## ■ 調査件数

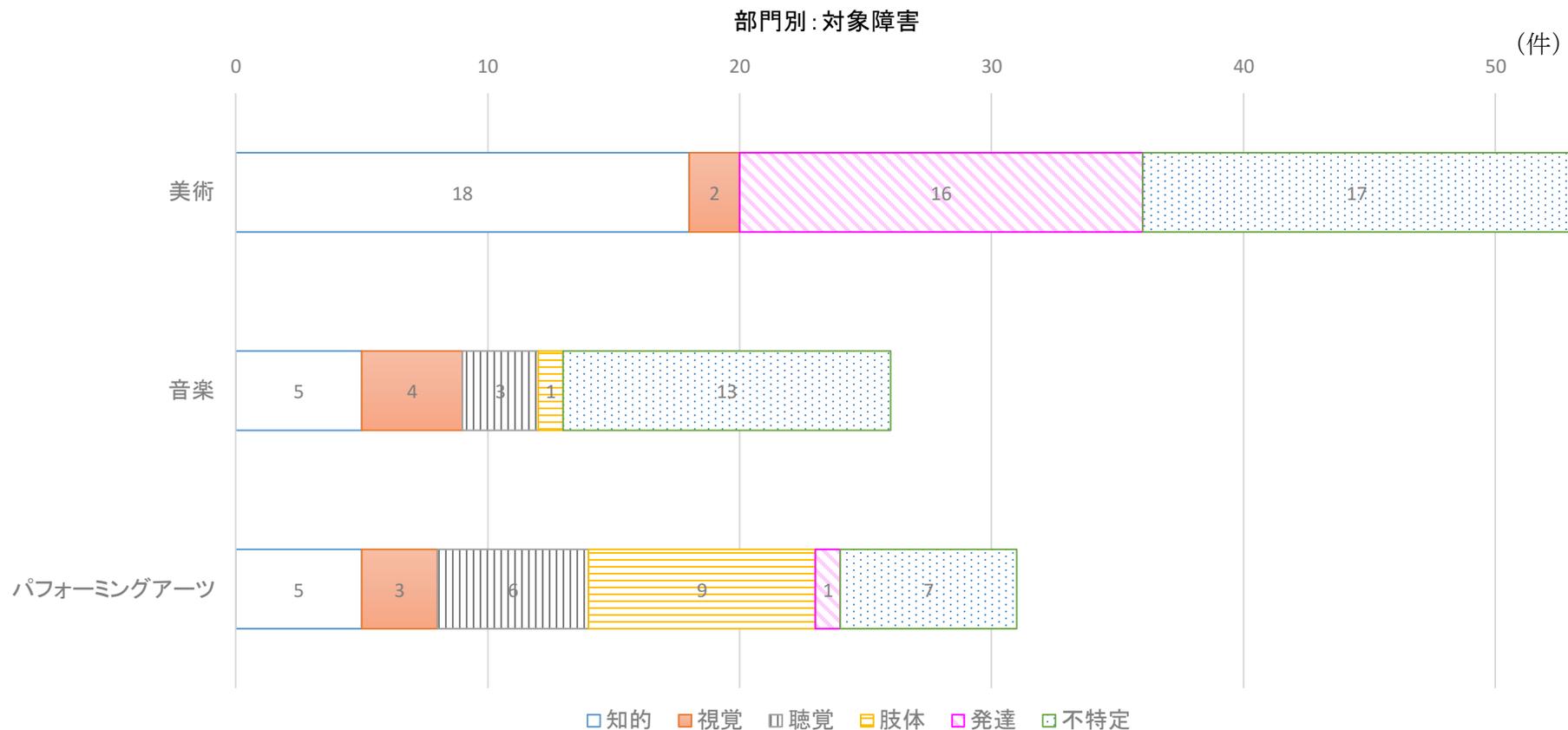
【美術】 基礎情報:37件、 詳細(インタビュー等):3件(アトリエpangaea、ボーダレス・アートミュージアムNO-MA、たんぼぼの家)

【音楽】 基礎情報:25件、 詳細(インタビュー等):2件(ゴールドコンサート/GCグランドフェスティバル、藝大アーツ・スペシャル)

【パフォーマンスアーツ】 基礎情報:26件、 詳細(インタビュー等):2件(日本ろう者劇団、みんなのダンスフィールド)

## 1.2. 統計① 部門別：対象障害の活動件数

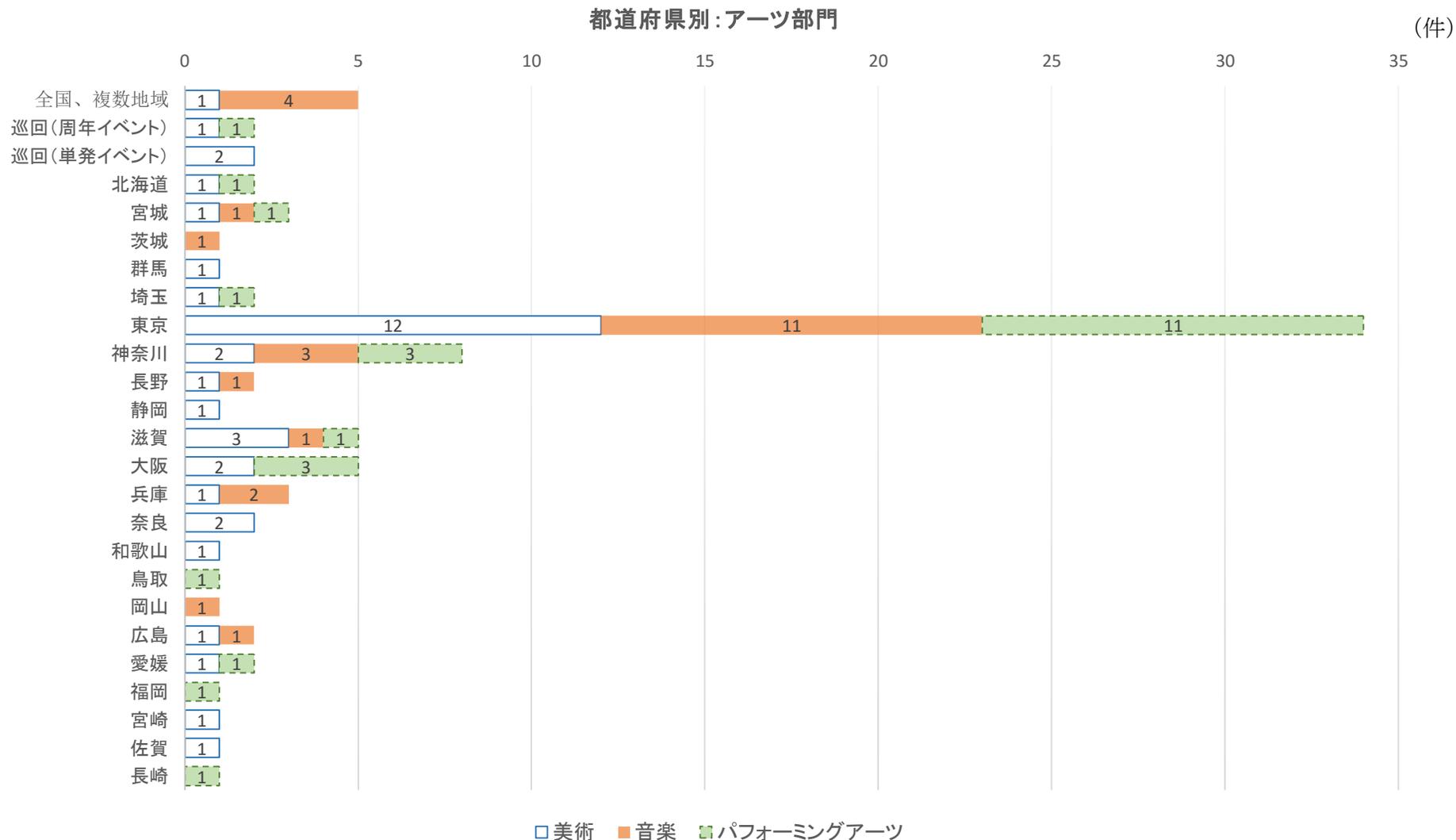
今回の調査結果における部門別の対象障害の活動件数は以下の通りである。



※1件の活動で複数の障害を扱っている場合は対象障害ごとにカウントしている

## 1.2. 統計② 都道府県別：対象部門の活動件数

今回の調査結果における都道府県別の対象部門の活動件数は以下の通りである。



## 2. 美術

---

## 2.1. 概要

---

障害者による美術は、「アール・ブリュット」や「エイブル・アート」、「アウトサイダーアート」とも呼ばれ、近年その活動が盛んになってきている。

既存の美術や文化とは無縁のなかで制作された芸術作品で、加工されていない生(き)の芸術、すなわち伝統や流行、教育などに左右されず自身の内側から湧きあがる衝動のままに表現した芸術と言える。

知的障害者、精神障害者などが精神病院内におけるアートセラピーなどで描いた絵画と捉えられることもあるが、今日では障害を持つ人たちの作品を社会につながりを持つための手掛かりとして支援しようとする動きが盛んになってきている。団体によっては障害者による作品をWebサイトや店頭で販売するなどして障害者の雇用を生んだり、自立支援につなげる活動を推進しているところもある。

今回の調査では、障害者による積極的な美術活動を対象に、書や手芸、工芸なども含めできるだけ幅広いジャンルを包括することとした。

調査結果からは、知的障害者や発達障害者による創作活動が多くみられたが、視覚障害者が美術を鑑賞する支援活動も存在し、言葉による説明や触覚など五感を生かした新たな楽しみ方も生み出されていることがわかった。

また、最近では、日本人の作品がヨーロッパ各地の展覧会で高く評価されたり、国内でも障害者による美術を扱う美術館や施設が続々と創設されるなど、年々関心が高まってきており、これからも認知度の向上は期待される。

# 2.2. 活動一覧 (1/5)

【注】※1記載順は開催地を基準とした(全国→複数→都道府県)  
 ※2「イベント」は一時的な取組み、「活動」は定常的な取組み  
 ※3「○」は対象障害が不特定  
 ※4「鑑賞型」は受動的な関与、「参加型」は能動的な関与  
 ※5詳細リサーチの項目に準じた特徴を明記  
 (以降のページも同様)

No ※1	類型 ※2	名称	主な対象障害※3				主な対象者 障害者・健常者 のみ含む	活動形態※4 鑑賞型・参加型	内容	実施団体	開催地	開催時期/頻度	開始年度	特徴※5
			知的	視覚	聴覚	肢体								
1	イベント	第15回全国障害者芸術文化祭	●			●	●	・障害のある人の芸術や文化活動への参加を通じて、障害のある人の自立と社会参加の促進に寄与することを目的として、全国持ち回りで開催。 ・今年のがこしま大会では「障害のある人もない人もみんなで楽しみ、交流でつなぐアートの輪」をコンセプトとして、以下のような多彩なイベントを開催 -美術・文芸作品の展示 -音楽、ダンスなどのステージイベント -バリアフリー映画祭	厚生労働省	全国	2015年11月27～29日 (年に1回)	2001年	<プログラム(活動内容)> 全国での持ち回りを通じて、各地ならではの特徴を生かした実施や、実施ノウハウの共有によるプログラム(活動内容)の質的向上を図る。 <資金繰り> 政府主導のイベントとして、多くの地場企業から協賛を募る。スポンサーに応じたメディア露出を設定している。	
2	イベント	アール・ブリュット作品全国公募	●			●	●	全国からアール・ブリュット作品を公募し、入選作品は、2016年に/り市立アール・サン・ピエール美術館、2017年にアール・ブリュット・コレクション(スイス)の展覧会の出展候補作品として位置づけられる。また2014年度にNO-MAでも展示される。	文化庁 (事務局・愛成会)	全国	公募:2014年9～10月 (半年度事業)	2014年	<目的> 全国にいる障害者アーティストを発掘することで、クオリティの高い作品を世界へ発信する。	
3	イベント	日本財団アール・ブリュット美術館合同企画展	●			●	●	・障害と芸術表現に対するこれまでの画一的な語られ方や受容のされ方への問いかけを、「アール・ブリュット」を掲げ探求する「みずのき美術館」(京都府)、「薪の津ミュージアム」(広島県)、「はじまりの美術館」(福島県)、「薬工ミュージアム」(高知県)の初めての合同企画展として開催。 ・監修者日比野克彦は「アール・ブリュットとは何か」という問いを、より普遍的、根源的な問いとして昇華させる言葉として、「TURN」という言葉掲げる。	日本財団	「みずのき美術館」(京都府)、「薪の津ミュージアム」(広島県)、「はじまりの美術館」(福島県)、「薬工ミュージアム」(高知県)	2014年11月8日～ 2015年9月23日 (複数年度事業)	2014年	<目的> 日比野氏による「TURN」というキーワードを通じて障害と芸術表現に対する新しいコンセプトを打ち出す。 <広報> facebookを活用し、長期間にわたる巡回展の今の様子を随時発信し、イベントへの関心を喚起する。	
4	イベント	アール・ブリュット・ジャポネ展	●			●	●	・2010年、パリ(フランス)のアール・サン・ピエール美術館にて開催されたアール・ブリュット・ジャポネ展は、(福)社会福祉事業団(現(福)グロー)の声かけにより全国から63名の作品が選ばれ、約800点が/りに送られた。 ・約1年に及ぶ会期中には、約12万人の来館者数を記録する展覧会となり、開催後は日本でも2011年から3年間をかけて美術館連絡協議会に加盟する美術館によって、同展の国内巡回展が行われた。	日本財団	埼玉県立近代美術館 2011.4.9～2011.5.15 新潟市美術館 2011.7.16～2011.8.28 高浜市やきもの里から美術館 2012.4.7～2012.6.3 岩手県立美術館 2012.6.12～2012.9.2 高知県立美術館 2013.1.14～2013.6.16 福岡市美術館 2013.10.1～11.24 熊本市現代美術館 2013.12.7～2014.2.23	2011年	<プログラム(活動内容)> 巡回先の全国の7美術館では、各担当芸員がご当地作家の作品を新たに紹介したり、全国で活躍する障害者の表現活動に積極的に取り組んでいる人のトークを企画したりと、各館ごとに特徴ある巡回展が行われた。来場者数は全国で約5万人。		
5	イベント	みんなあーと2015	●			●	●	・道内在住の知的障害者から作品を募集し展示。 ・入賞11点、入選100点を選出。	北海道知的障がい 福祉協会	北海道札幌市 かでの2.7	2015年9月3～5日 (年に1回)	2001年	<プログラム(活動内容)> 50周年記念として、ステージ部門も設け、パフォーマンスアーツとの同時開催で集客を図る。	
6	活動	SOUP	○	○	○	○	●	「障害者の芸術活動支援モデル事業」として、宮城県内でさまざまな活動している障害のある人たちの表現活動の原石を探し、その魅力や情報を発信し、新しい交流や参加の機会をつくることを図る。 障害のある人が自由に表現し、文化芸術にアクセスするために以下の活動を推進する。 ■相談窓口の設置 相談の内容は、[場所・材料・道具]、[支援方法・支援者]、[発表する・広報する・記録する・保存する]、[鑑賞する・対話する]、[財源・マネジメント]、[所有権・著作権]、[アドバイザー・地域資源]など。 ■人材育成のための研修 障害のある人の芸術活動支援に関する研修会、障害のある作家の著作権保護に関する研修会を実施。また「障害とは何か」「障害のある人の芸術活動に必要なものは何か」をテーマに対話やワークショップの場を設け、活動をひらく機会をつくる。 ■関係者のネットワークづくり 宮城県内の福祉団体・芸術文化振興団体・自治体などの関係機関とのネットワークづくりを行う。また、作品の調査・発掘、評価・発信にかかる取り組みも実践。 ■参加型展示会の開催 普段は個々それぞれに活動をしている障害者の方々の力とアイデアをもちより発表することを実践。学び、交流、社会的インパクトにつながるプログラム。	NPO法人エイブル・アート・ジャパン	宮城県仙台市 NPO法人エイブル・アート・ジャパン東北事務局内	常時	2014年(単年度予算)	<広報> 宮城県の障害のあるアーティスト・活動・障害のある人たちが参加できるアートのスペースの情報を一元化し紹介するWebページを設置。福祉分野に限らず、障害のある人が参加できる芸術文化振興団体の有効な情報も紹介。 活動に参加する際の利用や、実際の取り組みを訪問し知ること、新しい交流やプログラムを生むきっかけづくりを図る。	
7	活動	あーとおふ	●			●	●	■展覧会 県内外の多くの施設や学校、個人を訪ねて、作品を収納し、展示発表する場を設ける。 ■ワークショップ アートティーチャーを招いての絵画教室や、アートの新しい表現方法を探ったり、その指導者を養成。 ■調査研究 障害のある人のアート活動、また、障害のあるなしにかかわらずアート活動の現状や環境について調査研究。	NPO法人 工房あかね	群馬県高崎市 工房あかね	常時	2001年	<プログラム(活動内容)> アートスクール、アートプロジェクト、アートショップなど、アートを軸に地域とのつながりを多面的に推進。	
8	活動	あいアイ美術館	●			●	●	「アウトサイダーアート美術館」として以下のような活動を行っている。 1.小さな面泊たちの「作品常設展示」と季節ごとの「企画展示」 2.作品収集・整理、小さな面泊たちの成長記録作成 3.フェルトペン・書・中国茶芸はじめ、各講座の開催 4.美術鑑賞会、各講演会開催 5.面材紹介コーナー 6.あいアイミュージアムグッズコーナー 7.出張授業、貸し画廊としての提供 8.シアターはじめ懇談交流の場	NPO法人あいアイ	埼玉県川越市 あいアイ美術館	常時	1997年	<プログラム(活動内容)> 障害者自立支援のための講座として以下のような多岐にわたるプログラムを実施している。 ■通常「あいアイ」コース 月2回コース 月額 4,000円 ■個人指導コース 通信講座 年間12枚作品提出 24,000円(1年間) プラス個人指導 1回 2,000円 個人指導のみ 1回 5,000円(通常コースに参加していない場合) ■出張講座(5名から) フェルトペン講座 5回コース、10回コース(1回2000円)	

# 2.2. 活動一覧 (2/5)

No	類型	名称	主な対象障害				主な対象者 障害者:健康者 のみ	活動形態 鑑賞型:参加型	内容	実施団体	開催地	開催時期/頻度	開始年度	特徴
			知的	視覚	聴覚	肢体								
9	イベント	NAKANO 街中まるごと美術館	●				●	●	街全体をひとつの大きな美術館として、中野駅北口一帯を中心にアール・ブリュット作品があらゆる形で登場。以下の催し物を実施。 ・創作ワークショップ(2014年度の参加者数:のべ176名) ・街のスペース(アーケード、美術館、ホール、銀行等)を活用したアール・ブリュット展 ・フォーラムの開催 等	独立行政法人福祉医療機構(主催:社会福祉法人愛成会)	中野サンプラザ、中野区商店街ほか	1~3月(年に1回)	2010年	<関係者> 初めて開催するにあたっては、商店街のキーマンや関係者に根気強く説得した。一度実施したあとはイベントの意義を理解し、継続的な支援をしてくれるようになった。 <場所> 商店街のアーケードをはじめ、美術館、学校、ホール、銀行など様々な場所で作品を展示し、住民や訪問者の目に触れる機会を創出。
10	活動	アトリエpangaea(ばんげあ)	●				●	●	オープンなスペースとして2004年4月より、地域で暮らす障害のある人を対象に毎月1回のアトリエ活動を中心に行ってきた。最近では毎月、中野区内外から所属・年齢・障害を問わず、小学生~60代まで平均20名の人が参加している。 ・アトリエ活動:月1~2回(日曜日に開催) 参加費:1,000円 ・外出企画:年2回(写生や美術館鑑賞など) ・展覧会の開催:年4回	社会福祉法人 愛成会	東京都中野区アトリエpangaea(ばんげあ)	常時	2004年	<目的> 福祉制度にのらない、公益的な活動を行うことで障害の有無また障害の重い軽いなども超え、いろいろな人の集まる空間「より「楽しい」が生まれる空間作りを目標としている。
11	イベント	ボコラート	●				●	●	・障害の有無に関係なく、自由な表現の場を提供 ・全国から作品を公募し、入選作品を展示し、賞を選出(2015年度の出展数:203(応募数1286点)) ・表現に関するワークショップも同時開催(2015年度の参加者数:約100名)	千代田区、アーツ千代田3331	東京都千代田区アーツ千代田3331 1階メインギャラリー	2015年6月26日~7月20日(年に1回)	2011年	<広報> 魅力的なワークショップと同時開催することで展示会への意識喚起も図る。 <資金繰り> 以下の企業との協賛・協力を得ている。 ・特別協賛:中外製薬 ・協賛:三菱地所 ・協力:集英社HAPPY PLUS ART
12	イベント	アール・ブリュット展 in しがわ水族館	●				●	●	館内には、魚を題材とした作品を中心に、日本全国のアール・ブリュット作家10人による作品約100点が各所に展示され、水族館とアートが織りなす幻想的な空間を演出。	品川区	東京都品川区しがわ水族館	2015年9月16日~10月12日	2015年	<場所> 水族館で実施することで、幻想的な空間演出や水族館客への訴求効果につながる。
13	活動	A/A galleryなど	○	○	○	○	●	●	■A/A gallery 障害のある作家の作品を専門に紹介・販売。障害のある人の表現と社会をつなぐアトリエスペースとしてワークショップやセミナーも実施。 ■Able Art Company 障害のある作家のアート(絵画・イラスト・書など)を、広告や商品のデザインに仲介。登録作家は全国から86人、登録作品は8,000点超、事務局は奈良・東京・福岡のNPOによる共同運営。 ■企画制作事業 障害のある作家の発掘・育成支援事業「エイブル・アート・アワード~画材支援の部・展覧会支援の部」、東北の障害のある人と施設を支援する「Good Job! 東北プロジェクト」、各種セミナー事業など。	特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン	東京都千代田区A/A galleryほか	常時	1994年	<資金繰り> 会員制度による資金調達。 会員特典は以下の通り。 ・セミナーなどに無料または割引料金で参加 ・テーマを設けてのディスカッションや講師を招いての勉強会などに優先的に参加 ・事務局からの活動報告や、障害のある人たちの芸術文化活動に関する情報を発信 ・当法人が発行する出版物などを無料または割引料金で提供
14	活動、イベント	パラリンアート	●				●	●	■芸術美術 アトリエでの絵画教室等を通じて障害者アーティストを育成 ■ライセンス部門 障害者アーティストによる複製絵画やデザインを使用したビジネス支援 ■イベント部門 定期的なイベントを行い障害者アーティストを広く認知してもらう	一般社団法人 障がい者自立推進機構	東京都港区	常時	2007年	<場所> Webサイトのギャラリーにて全国へアーティストを紹介。出身地別やジャンル別などでも検索可能。 <資金繰り> 企業からCSR活動の一環として入会いただき、障害者アーティストの作品の展示、展覧会の開催、アート作品の2次利用の推進などを行う。会費によって障害者アーティストの自立を支援。 2011年度の実績として、賛同企業数74社、代理店33社、貸与数223点で、録作者40人の就労支援として作者報酬を届ける。
15	活動	アート村	○	○	○	○	●	●	「才能に障害はない」をコンセプトに、就労が困難な障害者の「アート」(芸術活動)による就労分野の拡大を目的に設立。現在、絵を描くことを業務とする、多くの障害者アーティストが就労。アーティスト社員に障害の度合いやそれぞれの才能に合わせた育成カリキュラムを組み、オンラインで個々の得意分野に特化した個性の育成。 ・アート村工房では障害者アーティストの作品の図柄を配した商品を、障害者手作りによる心のこもった商品としてオンラインショップで販売することにより、「アート」による障害者の自立を支援。	株式会社バナナハートフル	東京都千代田区	常時	1992年	<目的/プログラム(活動内容)> アーティストとしての育成から作品の販売まで一貫通した支援など、「アート」を通じて障害者の社会参加や自立を応援する様々な活動を推進
16	イベント	東京都障害者総合美術展	○	○	○	○	●	●	東京都内に在住の方で身体障害者手帳または愛の手帳の交付を受けている方から、それを乗り越えて創作活動を行っている人たちの絵画・書・工芸・写真等の美術作品を発表。	公益財団法人日本チャリティ協会	東京都豊島区西武百貨店池袋店	2015年8月6日~10日(年に1回)	1987年	<成果・実績> 約700点の応募作品が集まり、200点の入選作品が展示。来場者数は、およそ20,000名。 障害者に対する都民の理解を深めることを目的として、長年にわたって継続していることがイベントのステータスを上げている。今年の表彰式には、高円宮妃殿下がご臨席。

# 2.2. 活動一覧 (3/5)

No	類型	名称	主な対象障害				主な対象者	活動形態		内容	実施団体	開催地	開催時期/頻度	開始年度	特徴
			知的	視覚	聴覚	肢体	発達	障害者 のみ	健常者 含む						
17	イベント	2013 アジア・パラアート TOKYO	○	○	○	○	○	●	●	国内外より約1000点の応募があり、その中から222点の作品が展示。東京芸術劇場で実施した後は、日本全国の空港施設で特別展示。	公益財団法人日本チャリティ協会	東京都豊島区 東京芸術劇場展示ホール	2013年10月9日～13日 (4年に1回)	2009年	<プログラム(活動内容)> 現在はアジア地域の作品を中心として展示しているが、将来的には世界規模での障害者アートの美術展となることを目指している。
18	イベント	第10回アトリエ・アウトス展	●				●	●	●	・社会福祉法人嬉泉にて制作された7名の自閉症の人たちによる作品展。 関連グッズも販売。	社会福祉法人嬉泉	東京都世田谷区 玉川高島屋S・C南館6F ホワイトホール	2015年6月17日～23日	1988年	<場所> 百貨店や美術館など一般人が訪れる様々な会場で展示会を実施することで多くの人の目に触れてもらう(前回は2014年11月世田谷美術館にて)。
19	活動	MAR	●					●	●	障害のある人もない人も、子どももお年寄りも、一緒に「みる」ことを通じて、社会に存在するさまざまなバリア(障壁)を新たな出会いの、そして楽しみのきっかけとしてプラスに変えていけるような活動を目指す。市民と美術館を結ぶ緩やかなネットワークグループとして、美術や美術館の可能性を探るとともに新しい価値観やコミュニケーションを発見し、真の文化づくりについて考えていく。  ■美術館・展覧会に関する情報の公開 美術館のバリアフリーに関する情報の収集と公開。 ■アクセス調査 障害・状況などによる対象別アクセスルートデータをデータベース化し、文字によるアクセスマップの作成など誰もが利用しやすい形で公開。 ■新しい楽しみ方の発見 さまざまな人たちとの鑑賞ツアーを開催し、先入観や固定観念に縛られないコミュニケーションを通じた新たな鑑賞方法の発見やその可能性について探る。 ■視覚障害者とみるための鑑賞スキルの開発・ノウハウの蓄積 視覚障害者と一緒にみるためのスキルを開発し、蓄積したノウハウを社会へ還元。	MAR	東京都千代田区 MAR事務局(エイブル・アート・ジャパン内)	不定期	1999年 (継続中?)	<目的> まずは、美術館とは一番遠い存在におかれている視覚障害者と一緒に「みる」ことからはじめていく。ここで「みる」ということは、視覚や触覚だけに頼るのではなく、「ことば」と通じてお互いに想像力を働かせながら一緒に「みる」ということ。そこに生まれるコミュニケーションを大切にす。鑑賞とは、ただ物理的に目で見ることではなく、作品を感じる、感じ取ることで、そこに新たな発見や気づきがあること。ガイドする人される人という一方的な関係ではなく、ボランティアという立場でもなく、あくまで一緒に楽しくみる仲間として、みて感じて気づくことを大切にす。
20	活動	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	●					●	●	障害の有無にかかわらず、多様な背景を持つ人が集まり、ことばを交わしながら一緒に美術を鑑賞するワークショップ。さまざまな視点を持ち寄ることで、一人では出会えない新しい美術の楽しみ方を発見できる。誰もが気軽に美術館を訪れて、感じていることや印象、経験や考えを自由に語り合うような美術鑑賞のスタイルを目指している。  ■ワークショップ開催概要 定員: 15～20名程度 対象者: 子ども(小学校高学年程度)から大人まで誰でも参加可 参加費: 300円～500円ほど(別途観覧料)	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	都内近郊の美術館	常時 (月に1回)	2012年	<成果・実績> ・プログラム開催数: 計16回(25カ所)、合計参加者数: 1015名(うち視覚障害者214名) ・美術鑑賞ワークショップ(横浜美術館、東京都現代美術館、東京ステーションギャラリー、東京都庭園美術館、文化庁メディア芸術祭など) ・学校の授業(横浜市立官特別支援学校、群馬県立盲学校、女子美術大学など) <広報> facebookを有効活用し、参加者を募集。
21	活動	SLOW FACTORY	○	○	○	○	○	●	●	・国内外で活躍するアーティストを横浜市内の障害者施設に派遣し、商品の開発。 ・全て一点モノの手づくり雑貨ブランド「SLOW LABEL」を、全国の百貨店やセレクトショップで展示販売会を行う。 ・障害の有無を超え、多様な人々が集い、ものづくりを通して交流するSLOW FACTORYを市民活動へ展開。	特定非営利活動法人スローレーベル	神奈川県横浜市 泉の鼻テラス	常時	2009年	<資金繰り> 障害者による制作物をブランド化して販売することで収益を得て事業活動を拡大。
22	イベント	ヨコハマ・パラトリエンナーレ	○	○	○	○	○	●	●	・多様な人々が気軽に訪れることができる泉の鼻テラスで、『ヨコハマトリエンナーレ』の公式認定連携プログラムとして開催される。これにより、「障がい者とアート」の世界が、より身近になり、誰もが参加することができるようになることを目指す。 ・障害者とプロフェッショナルが協働する現代アート展の開催を通じて、アクセシビリティをはじめとした社会に溢れる「障害」に気づき、共に考える機会を創出することで、市民間の相互補完力を養い、誰もが暮らしやすい街づくりの実現を図る。 ・展示会では、障害者とアーティストの共同作品などが展示。	横浜ランデヴープロジェクト実行委員会 特定非営利活動法人スローレーベル	神奈川県横浜市 泉の鼻テラス	2014年8月1日～11月3日 (3年に1回)	2014年	<目的> さまざまな才能を持つ障害者と、各分野のプロフェッショナル、国際的に活躍するアーティストの技術や経験値を掛け合わせ、障害者が関与する芸術表現の幅をさらに押し広げようとしている(こうしたコラボレーションの形は、既に各地で実験的に行われているものもあるが、それらは福祉施設の活動として行われることが多いため、人々の目に触れる機会が少ない)。
23	イベント	第18回長野県障がい者文化芸術祭～夢・アートフェスタながの～	○	○	○	○	○	●	●	・絵画や工芸、写真などの作品展のほか、楽器演奏などのステージイベント、パスボム制作やフラワーアレンジメントなどの体験コーナー、福祉施設のバザーなどを開催。 ・県内で文化芸術活動に取り組んでいる障害者の作品を展示、紹介。 ・より多くの県民に鑑賞いただくため、芸術祭の終了後に5つの会場で県内巡回の「優秀作品展」を開催。入賞作品(絵画、手芸、工芸、書道、写真 各部門の最優秀賞1点および優秀賞3点 計20点)を展示。	長野県 (第18回長野県障がい者文化芸術祭実行委員会)	長野県長野市 長野県障がい者福祉センター「サンアップル」	2015年9月19日～9月20日 (年に1回)	1988年	<広報> イベント終了後も、県内の5会場にて巡回作品展を実施。

# 2.2. 活動一覧 (4/5)

No	類型	名称	主な対象障害					主な対象者 障害者・健常者 のみ含む	活動形態 鑑賞型・参加型	内容	実施団体	開催地	開催時期/頻度	開始年度	特徴
			知的	視覚	聴覚	肢体	発達								
24	活動	のづあ公民館	○	○	○	○	○	●	●	障害のある人、ひきこもりがちな人、居場所を探している人々が、自分のことを語ったり、おしゃべりしたり、仲間をつくり、余暇活動を行うなど、考えたり休んだりを繰り返して、本人の自信の回復と、社会とのゆるやかな接点づくりを行う。家庭や職場、施設以外の第3場の場所。 ・工房：フリーペーパー、缶バッジ、銅版画、木工作品、絵画作品が作れる設備 ・講座：絵画、版画、アート、陶芸など、アーティストが講師を務める講座を実施。 ・持ち込み企画：場所を開放し、様々な方の持ち込み企画を実施(詩の講座、手芸部など)。	NPO法人クリエイティブサポートレッツ	静岡県浜松市ののづあ公民館	常時	2004年	<関係者> 障害者をタレントと称して、魅力的にWebサイトにて紹介。スタッフも同様に掲載し、顔の見える地域における3rdプレイスを訴求。
25	イベント	生命の微一滋賀と「アール・ブリュット」	●					●	●	2019年に「アール・ブリュット」を新たなコレクションの核に加えた「新生美術館」の誕生に向けたステイトメントを示す展覧会として以下の作品を展示。 ・滋賀県の福祉施設で行われた造形活動の出発点や歴史の分岐点に登場した作品の展示 ・澤田真一氏や伊藤喜彦氏など滋賀県を代表する作家をはじめ、県外・国外の作家の作品の展示	滋賀県立近代美術館 (平成27年度文化庁戦略的芸術文化創造推進事業)	滋賀県大津市 滋賀県立近代美術館	2015年10月3日～11月23日 (単年度事業)	2015年	<広報> 会期中、滋賀県立近代美術館とボーダレス・アートミュージアムNO-MA、県内施設などを繋ぐバスツアーを行い、点ではく面での普及活動を実施。
26	活動	ボーダレス・アートミュージアムNO-MA	●					●	●	・滋賀県近江八幡市の歴史ある昭和初期の町屋を和室や蔵などを活かして改築し、障害者の作品のみならず一般アーティストの作品と並列に展示。「人の持つ普遍的な表現の力」を伝えることで「障害者と健常者」をはじめ、様々なボーダー(境界)を超えていくという実践を試みている。 ・年に5回ほど企画展を開催(2014年度の来場者：1006名) ・海外との連携プロジェクトでは日本の作品を海外の展示会に出展するなども行っている。	社会福祉法人グロー	滋賀県近江八幡市 NO-MA	常時	2004年	<プログラム(活動内容)>広報 2011年の滋賀県アール・ブリュット推進事業で国内やアジア地域において障害者の作品を調査し、データベース化。今後展覧会などを通じて広く社会に発信していく機会につなげることや、この調査を通じて出会った関係者同士のネットワークの構築を推進。
27	活動	金澤翔子まちや記念館	●					●	●	酒蔵跡の土蔵を再生し、ダウン症の書家金澤翔子氏の作品約100点を常設。	金澤翔子まちや記念館	滋賀県近江八幡市 金澤翔子まちや記念館	常時	2015年	<目的> 特定の著名アーティストに特化したギャラリーを設けることで、障害者アートのステータスを高める。
28	活動	ビッグ・アイアートプロジェクト	○	○	○	○	○	●	●	「国連・障がい者の十年(1983～1992年)」を記念して、2001年(平成13年)に厚生労働省が、障害者の「完全参加と平等」の実現を図るシンボリックな施設として国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)を設置。 障害者が自ら行う国際交流活動や芸術・文化活動の場として、また、障害者のみならず、広く国民の参加する交流の場として整備され、それらの活動を通じ、障害者の自立と社会参加を促進。 アートセミナー、アートキャンプ、サポーター養成講座などをはじめ、障害のある人たちのビジュアルアート、パフォーマンスアートの各分野で、3つのコンセプトを持って、以下のようなさまざまな企画を実施。 ・全ての障害者の参加・活動機会の提供 ・才能のあるアーティストの発掘と育成 ・先端アーティストの活動支援と社会への発信	ビッグ・アイ共働機構 (2011年から、社会福祉法人大阪障害者自立支援協会を代表表人として、大都會装束株式会社、株式会社サナイスの二者が、新たに「ビッグ・アイ共働機構」を結成して、国から管理運営を受託)	大阪府堺市 ビッグ・アイ共働機構	常時	2001年	<関係者> 施設やイベントの運営など、さまざまな場面で障害のある方とない方の交流を支えるサポーターを募集しており、平成27年度は以下のようなサポーター養成講座を実施した。 ■講座スケジュール 第1回「1冊の本と志」 第2回「地域をつなぐボランティア活動～自立までの道～」 第3回「キャップハンディ体験～障がいのある人への気付き・理解～vol.1」 第4回「キャップハンディ体験～障がいのある人への気付き・理解～vol.2」 第5回「ビッグ・アイのおしごと」
29	活動	アトリエ・コーナス	○	○	○	○	○	●	●	・障害者の母親たちによってアトリエを運営。 ・古い町家を改築したアトリエで障害者による自由なアート活動を支援。 ・ギャラリーではアーティストたちの常設展示を実施。	NPO法人コーナス	大阪府大阪市 アトリエ・コーナス	常時	2005年	<プログラム(活動内容)> 2年制(自立訓練)の学校も運営し、様々な作家や講師によるアートプログラムを体験できる。修了後には就労移行支援(2年間)も行う。 <広報> 積極的に自主企画展や他団体の展示会にて作品を出展することで、活動を告知。2011～2014年までに21件のメディアに掲載。2012年には活動をまとめたフォトブック、「THE CORNERSONE」を出版。
30	活動	あとりえずすかけ	○	○	○	○	○	●	●	・絵や創作活動が好きだったり、得意な方がメンバー(デザイナー)となり、仕事として週一回のペースで制作に取り組み。 ・Tシャツやてぬいに絵を描いたり、刺繍をしたり。自由に描くこともあれば、注文にお応えすることもある。商品開発や縫製などは職員が担当。メンバーと職員それぞれの得意なことを生かしながら商品や作品の制作、展覧会などの開催を行う。 ・月2回の絵画クラブでは、メンバーが思い思いに創作に取り組み、そこから生み出される作品は国内外で高く評価されている。	社会福祉法人一羊会	兵庫県西宮市 あとりえずすかけ	常時	1991年	<成果・実績> 独自の個性豊かな表現を続けている「すずかけ絵画クラブ」の作品は、今や海外のアール・ブリュット・コレクションにも作品が収蔵されるなど、国内外の数多くの展覧会に招待出品されて高い評価を受けている。 2015年10月17日～20日には、阪急西宮ガーデンズにて地元での展覧会を6年ぶりに開催。ベテランのメンバーをはじめ、若いメンバーの作品など、35名の100点を越える作品を展示。
31	イベント	奈良県障害者芸術祭 HAPPY SPOT NARA	○	○	○	○	○	●	●	展示会やワークショップなど多岐にわたる企画を実施(以下は2013-2014年の内容) ・県内15の団体・個人からアート作品を集め展示 ・障害者とアーティストが学校でアートワークショップを実施 ・障害者と企業、デザイナーなどが一緒に魅力的な商品をつくるワークショップ ・公募で集まった県内の障害者アーツ150点を店舗や町屋で展示する「プライベート美術館」 ・ムソルグスキーの名曲に合わせた障がい者アーツとダンサー、ミュージシャンのコラボレーションステージ「鹿の劇場」	奈良県(事務局:財団法人たんぼの家)	奈良県	1、2月頃の約1～2週間 (年に1回)	2011年	<目的> 「人と人の関係性」から生まれるアートをテーマに、障害のある人たちがアーティストや企業、多様な人々と出会うことでお互いに日々を豊かに生きるための「関係性」をアートでつくりだす。 <プログラム(活動内容)> プログラム間の連携を図ることで、イベント全体の集客力を高める。以下は2011年度の実績。 ・HAPPY SPOT NARAフェスティバル:1552名 ・プライベート美術館:1500名 ・鹿の劇場:414名 ・ワークショップ(4件):91名

## 2.2. 活動一覧 (5/5)

No	類型	名称	主な対象障害					主な対象者		対象者		内容	実施団体	開催地	開催時期/頻度	開始年度	特徴
			知的	視覚	聴覚	肢体	発達	障害者 のみ	障害者・健常者 を含む	障害者 のみ	障害者・健常者 を含む						
32	活動	アートセンターHANA	○	○	○	○	○	●	●	●	●	すべての人がアートを通じて自由に自分を表現したり、互いの感性を交感することができるコミュニティ・アートセンター。 ■スタジオ: 絵画、立体造形、テキスタイル、陶芸、書、語り、アレンジフラワー、パソコン、子どものためのアートスクールなどを展開。 ■ギャラリー: 今を生きる同時代人たちの表現を多様な視点で紹介したり、アートセンターで生まれた作品を展示・販売 ■カフェ&ショップ: アートセンターで生まれたアートグッズや書籍を販売 ■インフォメーションセンター: 国内外の障害者アートやケア、福祉に関する本の閲覧が可能。各地の展覧会・イベント・セミナーの情報も紹介。	一般財団法人たんのぼほの家	奈良県奈良市 アートセンターHANA	常時	2004年	<目的> 就労継続支援B型事業(定員10名)では、障害のある人が、地域コミュニティのなかで仕事をすることを目標にしている。アーティストとして収入を得ることを目標にしたり、人とのコミュニケーションを大切にしたい接客などを学ぶ(併設のカフェで)。
33	イベント	アールブリュット和歌山展	●				●	●	●	●	●	2015年8月に設立50周年を迎え、その記念事業の一環として、かつて邸宅「日高御殿」が生まれ変わった「ざらりーながわ」を開設すると共に、障害のある和歌山の作家による作品を主に展示。	和歌山県福祉事業団	和歌山県和歌山市、御坊市 ギャラリー	2015年9月5日～ 2016年1月31日 (単年度事業)	2015年	<場所> 和歌山市内の大通りに面したビルの中のギャラリーと元邸宅を改装したギャラリーの2か所を巡回して開催
34	活動	アートサポートセンターひゆるる	○	○	○	○	○	●	●	●	●	・アート教室では障害の有無や年齢を超えて、月に2回陶芸教室を実施。 ・専門家によるセミナーや個別相談を行い、創作活動を支援。 ・展覧会の開催や街中での作品展開を実施。 ・アーティストの想いや著作権の保護を大切に、アートの新しい可能性を提案。	NPO コミュニティリーダーひゆるるぼん	広島県広島市 コミュニティほっとスペースぼんぼん、アートサポートセンターひゆるる	常時	2001年	<場所/広報> 地域の人もふらっと気軽に立ち寄れてゆつくりつろげるギャラリー&カフェを設置することで、地域の想いの拠点を指すとともに、障害者アートを身近に感じてもらう。
35	活動	アトリエ素心居	○	○	○	○	○	●	●	●	●	・創作活動として陶芸、絵画、和太鼓、リトミックなどを中心に支援 ・啓発活動として、専用のギャラリーを使用する展示会の企画・展示や作品販売。さらにワークショップやミニコンサートを開催。	特定非営利活動法人 アトリエ素心居	愛媛県松山市 アトリエ素心居	常時	2001年	<プログラム(活動内容)> 絵画のみならず陶芸や和太鼓、リトミックなどを取り入れた支援活動
36	活動	アートステーションどんこや	●				●	●	●	●	●	“障がいがあるから表現できるもの”(エイブルアート:引用)を芸術活動を通して社会に示すことで、障害のある人の尊厳を認知し、誰もが住みよいまちづくりをめざす。 ・高齢者と障害者の合同作品展及び講演会、シンポジウム。 ・創作活動(生活介護事業の活動として、和紙/押し花/絵画/書/マジックアート等) ・作品掲示(啓発活動および動機づけ) ・商品作成(啓発活動および経済的支援) ・体験教室(障害への理解)	社会福祉法人ゆくりアートステーションどんこや	宮崎県宮崎市 アートステーションどんこや	常時	2015年 (芸術文化支援活動は2004年から)	<広報> 「生きる力展」として、高齢者と障害者の合同作品展及び講演会、シンポジウムを開催。アートステーションどんこやメンバーの作品のみならず、80歳以上の高齢者アーティストや県内支援学校生の作品、市内在宅障がい者の作品なども展示することで活動の認知度を高める。
37	イベント	第15回佐賀県障害者作品展	○	○	○	○	○	●	●	●	●	障害の正しい理解と障害者に対する偏見、差別を是正するため、又、障害者の社会参加を促進し、障害者福祉の増進と普及啓発を図ることを目的とする。 会場には、書、絵画、写真、手芸など、障害者の人々の作品や子供たちが描いたポスターなどを一堂に展示。	一般社団法人佐賀県身体障害者団体連合会	佐賀県佐賀市 佐賀県立美術館	2015年12月19日～ 2016年1月17日 (年に1回)	2001年	<成果・実績> 過去5年間の入場者数が以下のように着実に増加し、2015年度は過去最高の入場者を記録。 +689人(2011年)⇒723人(2012年)⇒2413人(2013年)⇒2087人(2014年)⇒3084人(2015年) <プログラム(活動内容)> 以下のような多岐にわたるジャンルのアートを展示(カッコ内の数字は2015年度の作品点数)。 ・書(29)、絵画(164)、写真(12)、手芸(72)、工芸(63)、和/洋裁(25)

## 2.3.1. 詳細①：アトリエpangaea(ぱんげあ)

### 団体名

社会福祉法人 愛成会

### 設立

1958年(アトリエ設立は2004年)

### 所在地

東京都中野区中野5-26-18

### 理念

『人はみんな、自分の人生の主人公。気持ちをくみとり、ひとり一人のエンパワメント』  
そして、その舞台となるのは社会です。  
愛成会では本人の意志を大切に、個性を発揮出来る環境を育て、社会と密に手をつないで、障害のある人の暮らし、仕事、あそびの充実を目指します。

### 活動内容

- 【メイプルガーデン】施設入所支援、生活介護、就労移行、短期入所
- 【ふらっとなかの】生活介護、就労継続支援B型
- 【グループホーム】共同生活援助(8か所)
- 【アトリエぱんげあ】地域に暮らす障害者を中心とした創作活動の場
- 【法人企画事業部】主に地域商店街や国内外の関係団体との協働によるアールブリュット作品の展覧会やフォーラム開催など障害者の文化芸術の発信

(HPより抜粋、参照)



## 2.3.1. 詳細①：アトリエpangaea(ぱんげあ)

### 目的

障害の有無また所属や年齢、障害の重い軽いなども超え、多種多様な人が集まり、出会い、創作活動を楽しむ空間、より「楽しい」が生まれる空間づくりを心掛け展開している。

### 活動内容

- ・アトリエ活動：月1～2回(日曜日に開催) 参加費：1,000円  
参加者が画材を選び、自由に創作を行う
- ・外出企画：年2回  
写生や美術館鑑賞など
- ・展覧会の開催：年4回  
アトリエ作品を始め、在宅で制作している方の作品など幅広い視点から作品を展示し紹介。区内又は、都内施設との合同展の開催など。
- ・その他  
一般開放日やワークショップイベントを通した、他団体・施設、大学などとの交流事業。

### 対象

- <アトリエ活動>定員30名
- ・愛成会や他施設の利用者
- ・一般就労している障害者
- ・ひきこもり等の諸事情で社会参加ができていない方
- ・特別支援学校に通う学生
- ・地域の方
- ・子ども

### 関係者

- <運営>
- ・愛成会の企画事業部職員1, 2名
- <サポーター>
- ・地元のボランティア
- ・地元のアーティスト
- ・福祉や芸術系の学生

### 場所、設備

- ・施設入居者が利用する多目的スペースをアトリエとして活用。イベント時は地域センターや区内の体育館を借りている。
- ・クレヨン、画用紙、のり、セロテープ、粘土など基本的な画材をはじめ、油絵や水墨画のセット等、参加者のリクエストや障害、年齢などに合わせて幅広い画材を用意している。

### 成果・実績

#### <施設にとって>

- ・活動当初の参加者は数名ほどであったが、年々増加している。
- ・地域や一般からの参加者をはじめ多数の見学者やボランティアが施設に訪れる機会となっている。

#### <障害者にとって>

- ・2年間全く絵を描けなかった方が自然と描くようになり、創作を楽しんでいる。
- ・創作や出来あがった作品が多くの人とのコミュニケーション、出会いの機会に繋がっている。
- ・展覧会を機に創作に楽しみを見出し、意欲の向上につながっている。
- ・外部との関わりがほぼ無かった方が、多くの人の中で過ごすことで、日中通所施設に通うようになった。

#### <健常者等にとって>

- ・他人への偏見をなくす社会教育の場にもなる。
- ・障害の有無に関わらず自宅に引きこもりがちな方にとっての社会復帰の第一歩となっている。
- ・学生にとっては、障害者への理解や創作姿勢に係る学びの場となる。

### 広報

- ・展覧会等でチラシ等の配布
- ・愛成会のHPから情報発信
- ・SNSを活用
- ・社会福祉協議会などへの相談経由

### 資金繰り

- ・人件費は法人より負担
- ・ワークショップや展覧会は助成事業の受託により開催
- ・その他、アトリエ開催にかかる経費(画材購入費、ボランティア交通費など)は全て参加費から負担している

### 特徴

- ・福祉制度を利用せず公益的な活動を行うことで障害の有無また障害の重い軽いなども超えた人々の交差点となる。
- ・創作時間でも無理に創作させようとはしない。本人の創作意欲を尊重する。アトリエは参加者にとっての居心地の良い場であることを重視。
- ・初参加を希望する障害者には、以下のような事前リサーチをし、本人にとって参加しやすい環境の提供に努める。
  - 区内：入手できる個人情報をリサーチ
  - 区外：事前に電話等で本人の様子や状態を把握

### 課題や今後の展望

- ・障害者や健常者からのニーズは高まっているものの活動の拡大に際する事業費の確保が難しい。  
⇒福祉制度を利用するスタイルにも取り組み、活動の幅を広げる。
- ・展覧会をもっと実施したいが人手不足  
⇒より一層の情報発信を図り協力者を募る。



## 2.3.2. 詳細②：ボードレス・アートミュージアムNO-MA

団体名	理念
社会福祉法人 グロー	私たちは次の2つの言葉を胸に、この地域に生きる全ての人の、安心な暮らしが保障され、尊厳を持ってその人らしく生きることができる社会を創っていきます。 「生きることが光になる」 全ての人は自らの命を通して、人に生きることの尊さを知らせるものであると考えます。 「ほほえむちから」 ほほえむちからを、人は誰でも持っています。向かい合う人に対するほほえむちから、向かい合う人のほほえむちからを大切にします。
設立	活動内容
1967年(社会福祉法人滋賀県社会福祉事業団として)	【高齢】養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、老人デイサービスセンター、高齢者支援センター、居宅介護支援事業所 【障害】グループホーム、障害福祉サービス事業所、障害福祉サービス事業、障害児入所施設、障害者支援施設 【相談】相談支援事業 【救護】救護施設 ※ボードレス・アートミュージアムNO-MAは平成16年に開館
所在地	
滋賀県近江八幡市安土町下豊浦4837番地2	

(HPより抜粋、参照)



近江八幡市の歴史ある町屋など複数会場で開催!!



**アール・ブリュット☆アート☆日本3**

2016年2月20日(土) — 3月21日(月・振休)



会場 ボードレス・アートミュージアムNO-MA+近江八幡市旧市街4会場  
独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業



## 2.3.2. 詳細②：ボードレス・アートミュージアムNO-MA

### 目的

障害の有無を超えて人が持つ「人間が表現することの普遍的な力」を感じてもらおう場づくり。

### 活動内容

- ・滋賀県近江八幡市の歴史ある昭和初期の町屋を和室や蔵などを活かして改築し、障害のある人たちを中心としたアール・ブリュット作品を紹介すると同時に一般アーティストの作品も並列に展示。障害者と健常者をはじめ、様々なボーダー(境界)を超えていくという実践を試みている。年に数回の企画展を実施。
- ・ミュージアムグッズや関連書籍の販売。
- ・日本のアール・ブリュット作品を海外の展示会に出展するという海外との連携プロジェクトの推進。
- ・日本国内及びアジア地域でのアール・ブリュット作品調査の実施。
- ・県内小学校等での出張授業の実施

### 対象

- <作家>
- ・全国の障害者
  - ・一般のアーティスト

- <鑑賞者>
- ・国内外の一般客、団体
  - ・社会福祉関係者
  - ・美術や医療の関係者

### 関係者

- <運営>
- ・グロー文化芸術推進課
  - ・グロー法人本部企画事業部

- <サポーター>
- ・地域のボランティア  
(展示会の受付や案内役として約90名が登録)

### 場所、設備

- 近江八幡市の重要伝統的建造物群保存地区にある昭和初期の町屋を改装したミュージアム。
- ・1F:グッズコーナー、展示場(離れの蔵も展示場として利用)
  - ・2F:展示場

### 成果・実績

- ・2006年から、アール・ブリュット・コレクション(スイス・ローザンヌ市)との連携プロジェクトに取り組み、2008年にはコラボレーション展「JAPON」展を開催。日本国内でも東京、北海道、滋賀を巡回する「アール・ブリュット/交差する魂」展を開催し、世界に向けて日本のアール・ブリュット作品を紹介。その後も日本の作家63人、約800点の出展作品による「アール・ブリュット・ジャポネ」展がパリの美術館主催で開催され、12万人という観覧者数を記録。2012年のオランダでの同展示会にも特別協力。
- ・年間約1万人がNO-MAを訪れる。
- ・2013年から実施している「アールブリュット・アート日本」ではNO-MAと近郊6か所で作品を展示するうえで、作品の案内などに地域の方々がボランティアとして参加。引きこもりの状態にあった人やお年寄りなどが社会とつながる場にもなっている。

### 広報

- ・展覧会等でチラシ等の配布
- ・NO-MAのHP等から情報発信

### 資金繰り

- ・国および県の補助金、民間の助成金

### 特徴

- ・平成16年の開館当時から国内やアジア地域において障害者の作品を調査し、データを蓄積している。展覧会の開催を通して広く社会に発信する機会につなげたり、調査を通じて出会った関係者同士のネットワークの構築を推進。
- ・HPの言語が4か国語対応(日、英、中、韓)
- ・地元の観光物産協会と連携し、観光パスポートの掲載館となっている。
- ・県が障害者の地域移行促進の観点から、芸術活動支援に対し予算を確保し、グローに補助している。
- ・運営する社会福祉法人グローが平成26年から障害者の芸術活動支援モデル事業(厚生労働省補助事業)の連携事務局を担っている。

### 課題や今後の展望

#### 【課題】

- ・行政からの支援が、単年度補助事業であるため複数年を見越した事業展開が描きにくい。

#### 【展望】

- ・2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて国内外の関係機関とのネットワークを構築し、障害者の芸術活動のさらなる推進を図る。
  - 2017年にフランスナント市の文化施設で開催される国際文化交流事業の実施
  - 2018年に日本とスウェーデン国交150年を記念したアール・ブリュット展の開催

## 2.3.3. 詳細③：たんぽぽの家

### 団体名

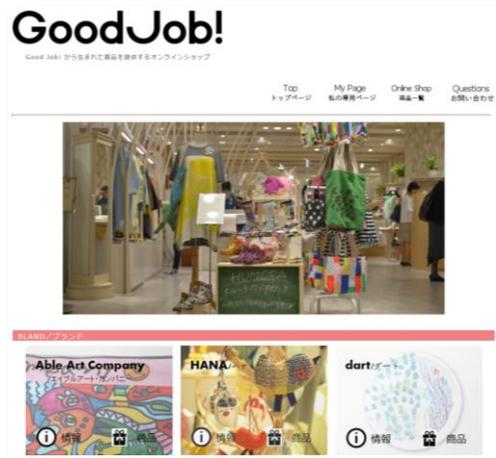
たんぽぽの家  
(社会福祉法人 わたぼうしの会 / 一般財団法人 たんぽぽの家  
/ 奈良たんぽぽの会)

### 設立

1973年(奈良たんぽぽの会)  
1976年(財団法人たんぽぽの家)  
1987年(社会福祉法人わたぼうしの会)

### 所在地

奈良県奈良市六条西 3-25-4



### 理念

みんなが同じ生を受け、みんなに違う生き方がある。  
障害のある人たちの生きる場づくりから、個を支えあう新しいコミュニティづくりへ。  
たんぽぽの家は、自分らしく生きたいという個人の願いを‘共感’という方法でとらえるところから生まれきた市民活動です。  
「やさしさ」を活動の基調とし、たくさんの試行錯誤と多くの人たちのつながりを通して、文化と夢のある社会づくりに取り組んでいます。

### 活動内容

- 【一般財団法人たんぽぽの家】  
[アート]と[ケア]の視点から、多彩なアートプロジェクトを実施。ソーシャル・インクルージョンをテーマにアートの社会的意義や市民文化について問いかける活動や、国内外の団体とネットワーク型の文化運動「エイブル・アート・ムーブメント」を展開。
- 【社会福祉法人わたぼうしの会】  
障害のある人、子どもや高齢の人などが安心して地域のなかで生きていくことを支えるために[アート・ケア・ライフ]という視点を柱にした社会福祉サービスを実施。日中活動・就労支援と、相談支援・生活支援、福祉ホーム、配食サービスなどを運営。
- 【奈良たんぽぽの会】  
たんぽぽの家の運動を支えるボランティア団体として、チャリティバザーやコンサートなどを運営。
- 【Good Job!プロジェクト】
  - ・障害のある人の表現を生かした魅力的なプロダクトや、伝統産業・地場産業と福祉施設の協働によるプロジェクトなどを紹介するGood Job!プロジェクトを展開。全国で新たな出会いと仕事が生まれる場づくりを目指し、これまで2012年から3年度にわたり開催。2014年度は北海道・東京・愛知・福岡・兵庫で16,000人の来場。  
Good Job! から生まれた商品をブランディングし、オンラインショップでも提供することで、展示イベントと販売の有機的な連携を図っている。
  - ・2015年度のGood Job!プロジェクトでは、既存の労働観にとらわれないユニークな発想で、障害のある人の可能性を生かした新しいしごと、アートやデザインの力を生かした創造的なしごと、先駆的・革新的・実験的な取り組みなどを募集するGood Job! Awardを実施。  
障害のある人の仕事や生活の現場から“新たなしごと・はたらき方”のヒントになる試みを国内外から募り、広くシェアすることを図る。

(HPより抜粋、参照)

## 2.3.3. 詳細③：たんぽぽの家（エイブルアート・カンパニー）

### 目的

障害のある人のあたらしい仕事として、アートをデザインとして使える仕組みを運営する中間支援組織。企業やデザイナーとのコラボレーションによって生まれた製品によって、だれもが生活のなかでアートにアクセスできるような状況をつくることをめざしている。

### 活動内容

- ・カンパニーアーティスト(障害のある登録作家)の作品公開、および著作物使用の窓口
  - 登録作品は全てウェブサイトで公開し、使用の相談に対応(登録作品総数9,051点)
  - アーティスト個人と契約をかわし、著作権を管理
- ・各種のプロモーション活動を行う
  - イラストレーションのオーダー制作。
  - アーティストの作品を用いた商品化、ノベルティグッズの製作
  - 広告や商品へのデザイン利用の相談対応、商業スペース等でのイベント実施
- ・障害のある作家たちのマネジメント
  - 障害のあるアーティストの公募と選考を実施
  - 使用実績に応じて、アーティストへ著作権使用料の支払い
- ・講演活動、研究会・フォーラムの開催
  - カンパニーアーティスト、事務局スタッフ、またはデザイナーや使用者(企業)などが登壇するプログラムを企画・運営

### 対象

- <作家>
- ・全国の障害者アーティスト(2015年10月現在、94人が登録)
- <購入者>
- ・一般の個人
- ・企業、法人

### 関係者

- <運営>
- ・一般財団法人たんぽぽの家を本部として、NPO法人エイブル・アート・ジャパン(東京)と、NPO法人まる(福岡)の三者が連携し共同で運営

### 場所、設備

- ・主にWebサイトを通じた作品の販売。
- ・事務局は「一般財団法人たんぽぽの家」、「NPO法人エイブル・アート・ジャパン」、「NPO法人まる」の3か所

### 成果・実績

活動実績は以下の通り(2000年度)。

- ・使用実績(157件)
  - 印刷物(97件)
  - ノベルティグッズ(8件)
  - パッケージ(27件)
  - アパレル(15件)
  - その他(5件)
  - ステーションナリー(2件)
  - キャラクター・マーク(2件)
- ・プロモーション(11件)
  - 出展(7件)
  - オリジナルイベント(4件)
- ・報道実績(60件)
  - 新聞(31件)
  - 雑誌(8件)
  - テレビ(12件)
  - その他(9件)

### 広報

- ・エイブルアート・カンパニー及び各事務局のHPから情報発信
- ・イベントや作品展に出展
- ・パブリシティによるメディア露出

### 資金繰り

- ・アーティストの作品を用いた商品化、ノベルティグッズの製作
- ・エイブルアート・カンパニーのオリジナル商品の販売 など

### 特徴

- ・カンパニーアーティストの作品(絵画・イラスト・書など)利用に関する明確な規定を設け、利用別に応じた料金の目安を開示することで、事業としてのサステナビリティを図っている。

**Able Art Company**



(以上は全てHPより抜粋、参照)

### 3. 音楽

---

## 3.1. 概要

---

障害者による音楽活動は演奏や鑑賞で大きく分類できるが、音楽を通じた交流の場はいくつかのタイプに分けることができる。

例えば、行政機関が行うバリアフリーイベントなどは各地域や市町村ごとに年1回～3回程度行われることが多く、地域の障害者のコミュニケーションの場としても有効な交流会と言える。

また、民間や大学、NPOが手掛ける音楽交流フェスティバルなどは、基本的に年に1回開かれる大きな大会となるため、励みとなる演奏会とも言える。

日常的な活動では各地域ごとにある交流プラザでの活動が挙げられる。交流プラザは地域のコミュニティとして存在しているため、所属することで社会とつながる安心感や友達ができるという充実感、安らぎを得ることができる。その上、皆と一緒に練習を行い定期的に演奏会を行うこともできるため、充実感を得たりスキル向上ができる場と言える。

さらには、養護施設などに通う障害者による音楽活動もある。プロの演奏家が出向いたり、教員が教えたりしながら、音楽療法も兼ねたプログラムを実施しているところも多々ある。

今回の調査では、障害者による参加型の活動に主眼を置くこととした(鑑賞や福祉目的の活動は多々見られるが対象外とした)。また個人でプロとして活動している演奏家は対象外とした。

調査結果からは、美術やパフォーマンスアーツと比較して、音楽の特性上、視覚障害者による活動の割合が高い傾向にあることがわかった。

またもう一つの特徴は、企業がCSR活動の一環として支援しているケースが多く見受けられることである。障害者に音楽鑑賞の機会を提供するタイプや、音響事業を推進する企業による聴覚補助機器などを用いた鑑賞会の実施などがある。企業によっては鑑賞会に来場する障害者のサポートを通じて社員教育を図るところもあった。

# 3.2. 活動一覧 (1/3)

【注】※1記載順は開催地を基準とした(全国→複数→都道府県)  
 ※2「イベント」は一時的な取組み、「活動」は定常的な取組み  
 ※3「○」は対象障害が不特定  
 ※4「鑑賞型」は受動的な関与、「参加型」は能動的な関与  
 ※5詳細リサーチの項目に準じた特徴を明記  
 (以降のページも同様)

No ※1	類型 ※2	名称	主な対象障害※3					主な対象者 障害者:健常者 のみ:含む	活動形態※4 鑑賞型:参加型	内容	実施団体	開催地	開催時期/頻度	開始年度	特徴※5
			知的	視覚	聴覚	肢体	発達								
1	イベント	身体で聴こう音楽会		●			●	●	聴覚に障害をもつ人の「音楽体験の場」として「体感音響システム」を使ったコンサートや手話コンサートを実施。 当音楽会の運営(機材の搬入搬出やセッティング、オペレーション、受付、進行など)は、すべて社員のボランティアによって行なわれている。	パイオニア株式会社	全国の様々なコンサートホール	定期 (年に6回ほど)	1992年	<成果・実績> ・2011年に第3回「Make a CHANGE Day」※において、特別賞「Make a CHANGE Day 実行委員長賞」を受賞。(※1年に1日、全国各地で一斉にボランティアや市民活動を行う日のこと。趣旨は、これまでボランティアや市民活動に参加したことがない人が、この日をきっかけに初めて活動に参加したり、すでに活動をしている場合は、新たな仲間とともに活動する。規模を大きくするなど、より発展的な活動をする日にしてもらうことを目的とする) ・「メセナアワード2007」において、メセナ大賞部門体感音響賞を受賞。継続的な活動が(1)自社のノウハウを活かした社会貢献であり独自性がある、(2)多くの社員ボランティアが参加している、(3)国内、海外も含め徐々に活動が広がっている、との理由	
2	活動	トヨタコミュニティコンサート	○	○	○	○	●	●	「音楽を通じて地域文化の振興に貢献すること」を目的に、1981年より(公社)日本アマチュアオーケストラ連盟と連携し、日本各地で活動しているアマチュアオーケストラの公演を、トヨタと全国のトヨタ販売会社グループで支援するクラシックコンサート。コンサートには3つのタイプがあり、障害者も対象としているのは以下の2つ。 ■移動・訪問コンサート:生の演奏を聴く機会が少ない地域に出向き、特別支援学校・病院・福祉施設などで演奏。 ■招待コンサート:青少年や高齢者・身体に障害のある方などをご招待。	トヨタ自動車株式会社	2015年度は25都道府県	常時 (2015年度は45公演)	1981年	<目的> 企業のCSR活動の一環として、地域密着型の社会貢献を目的とする。	
3	活動	ミュージック・シェアリング	○	○	○	○	●	●	「音楽大学の学生や卒業生から成る」楽器指導・演奏ボランティアを関東地区3つの特別支援学校に派遣し、担当教諭と一緒に生徒たちへ楽器の演奏指導、モデル演奏を実施。現在指導している楽器は、ヴァイオリン、フルート、クラリネット、トランペット、サクソフォーン、打楽器で、生徒が使用する楽器のいくつかはミュージック・シェアリングから各校に貸与している。 ・定期的に毎週の授業もしくは課外活動に楽器指導・演奏ボランティアを派遣し、楽器指導や演奏を行う。継続的な指導を通じて、生徒達の興味を深め、新たな自己表現・自己実現につなげたり、同時にボランティアの若い演奏家たちの社会貢献活動に対する理解や意欲を高めることも目指している。	NPOミュージック・シェアリング	・神奈川県立麻生養護学校 ・筑波大学附属桐が丘特別支援学校 ・横浜国立大学教育人間科学部附属特別支援学校	常時	2006年	<関係者> 世界的バイオリニスト五嶋みどり氏が理事長を務め、昭和音楽大学、くらしき作陽大学のヴァイオリン、フルート専攻の学生が、ボランティアとして参加。	
4	イベント	みみともコンサート		●			●	●	・子供から大人まで、難聴者と健聴者が共に最高の音楽を楽しんでいただく一般公募を中心とする全席無料招待制のコンサート。演奏者には、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団で活躍するチェリスト、ラファエル・フリーダー率いる「ウィーン三重奏団」を迎える。 ・難聴者に対する情報保障として、磁気を通して補聴器に音を届け、雑音の少ないウリアンを音声聴くことができる「磁気ループシステム(テレコイル)」及び話し手の内容を要約して字幕で伝える「要約筆記」を導入し、難聴者への配慮にも取り組む。 ・洗足学園音楽大学附属音楽感受研究所研究員の松本祐二氏に監修を依頼し、同研究所が提唱する「聴覚のバリアフリー」の考え方に基づき、難聴者にとって聴きやすく楽しめるような曲目の種類や構成等においてもアドバイスを得る。	オーティコン株式会社 (協力:特定非営利活動法人フレンドシップ・コンサート)	・東京 王子ホール ・大阪 ムラマツリサティールホール新大阪	東京公演:2015年11月20日 大阪公演:2015年11月25日	2014年	<目的> 補聴器メーカーである当社のCSR活動の一環として開催するイベント。子どもから大人まで、そして難聴者と健聴者が共に、最高の音楽を楽しむ場を提供することを目的としている。補聴器装用者でも気兼ねなくクラシックコンサートで最高の音楽を楽しみ、クラシック音楽ファンや健聴者に対しては、聞こえや難聴に関する理解を促進する啓発活動も行っていく。	
5	イベント	第15回とっておきの音楽祭			○	○	●	●	・障害のある人もない人も一緒に音楽を楽しみ、音楽のチカラで、「心のバリアフリー」を目指す音楽祭。第1回開催から、皆様の演奏・歌声・ダンスなど様々な「チカラ」を表現できるステージを提供し続けた。震災後の開催は、被災地東北からその「チカラ」を発信できる場として広く認知され、宮城県内はもとより東北そして全国にも、存在感と情報発信力を増している。 ・毎年、県内外から数多くの団体・バンドが出演し、障害のある人もない人も参加し、心のバリアフリーを目指す屋外の音楽祭としては、日本最大規模。 ・2001年に仙台で始まったこの音楽祭は、県内では東松島市、栗原市、東北では秋田市、山形市、福島市、南相馬市、本宮市、会津若松市、盛岡市、九州では熊本市、人吉市、鹿児島市、鹿屋市でも開催され、2014年には大阪府枚方市、2015年には兵庫県篠山市と、全国にも広がっている。	とっておきの音楽祭実行委員会SENDAI	宮城県仙台市市民活動サポートセンター	2015年6月7日 (年に1回)	2001年	<資金繰り> 開催日前の4月21日から6月1日までの期間、クラウドファンディングサイト「Makuake(マクアケ)」にて支援を呼びかけ44名から寄付を募った。と同時にこの音楽祭にかける思いを全国へ発信し、一緒に音楽祭を創りあげていく新たな仲間を全国から募ることができた。 <成果・実績> 2014年度の実績 ・参加バンド数:324 ・演奏者数:約2700人 ・延べ観客数:約25万人	
6	イベント	ヘレン・ケラー記念音楽コンクール	●				●	●	盲学校音楽教育の実態を知ってもらい音楽家を志す盲学生の登竜門にするのを目的として始まった。 ■実施概要 ・器楽部門7部と声楽部門3部 ・各部門で1位~3位を表彰 ・最も感銘を与えた演奏にヘレン・ケラー賞を表彰 ■出場者:49名(全国の小学生から高校生まで)※2014年度	東京ヘレン・ケラー協会	東京都文京区トッパンホール	11月 (年に1回)	1949年	<成果・実績> ピアノの辻井伸行氏、バイオリンの和波孝晴氏、チェンバロ等の武久源造氏など国際的に活躍する音楽家を輩出。	
7	イベント	ゴールドコンサート	○	○	○	○	●	●	毎年、約100組の応募の中から審査を通過した、約10組の障害をもつミュージシャンが、その年のグラフレリをかねて行う音楽コンテスト。車いす席、点字プログラム、手話通訳、パソコン文字通訳、など、障害をもつお客様にも楽しんでいただくための様々な工夫が凝らされている。また国際交流も盛んで、約10年に渡り韓国からミュージシャンが出演していて、本年2015年は日韓国交正常化50周年記念事業にも認定されている。	NPO法人日本バリアフリー協会	東京都千代田東京国際フォーラム	2015年10月12日 (年に1回)	2003年	<関係者> 観客10,000人規模。コンサートに関わるボランティアは毎回約200人へのぼる。	

# 3.2. 活動一覧 (2/3)

No	類型	名称	主な対象障害				主な対象者 障害者:健常者 のみ:含む	活動形態 鑑賞型:参加型	内容	実施団体	開催地	開催時期/頻度	開始年度	特徴	
			知的	視覚	聴覚	肢体									発達
8	活動	新星78	●					●	・純粋な演奏会形式のコンサートの他に、首都圏の一般小・中学校の音楽鑑賞教室を通しての児童生徒への情操教育、1978年から都内の教会で毎年2回開催して来た「チャペル・リサイタル」の企画・協力を通して、音楽家を指す盲学生たちへの啓発、全国的な各種イベント(官公庁や施設、企業等の催し物)への参加における社会福祉意識と地域の音楽文化への寄与、そして、ハワイやフィリピンへの海外ツアー、ベルギー、フランス、オーストラリア各大使館での「ベネフィット・リサイタル」を通しての国際親善と友好等。 ・1981年から10年間の「国際障害者年」期間を通して、全国18都道府県で開催された「シリーズ」われら人間コンサートへの出演。	新星78	主に東京の公民館ホールや協会、小学校	常時	1978年	<プログラム(活動内容)> 障害をもった演奏家が障害者への啓発を行ったり、一般小・中学校の音楽鑑賞教室を通しての児童生徒への情操教育を実施。芸術の世界に身体障害の有無はないことを実践。 <成果・実績> 1979年から32年間、30回開催された「小学生に贈るコンサートの集い」〜「こどもたちにおくるふれあいコンサート」(上福岡ライオンズクラブ主催)や、1990年から94年、28回に渡り開催した「ライフプラザ・コンサート」(安田海上火災保険主催)、1991年から現在まで続けている百回を超える「新星78定期演奏会」(自主企画)、1998年から現在まで続けられている「シリーズ」君にとどけたい愛のコンサート」(トウキョウ音楽企画主催)への出演。	
9	活動	Break Rocks	○	○	○	○	○	●	●	障害を持った主宰者が開催する音楽サークル。様々な障害を持った仲間同士で、音楽的な交流をしながら普段では知り合えない人々と一緒に音楽や人生相談をすることが出来る場でもある。初心者も気軽に参加できる。	Break Rocks	東京都サウンドスタジオノなど	月に1回程度	-	<広報> 障害者の方が音楽を通じてハンディキャップを乗り越えるきっかけづくりや仲間同士で音楽を今までは違う喜びや新発見が見出せることをWebサイトにて丁寧に解説。楽器別の演奏ポイントや障害による演奏の制約など障害者視点で情報を発信している。
10	イベント	第31回障害者のためのふれあいコンサート	○	○	○	○	○	●	●	・障害のある人々や家族が、オーケストラ等の芸術に親しむとともに、障害のない人ともふれあいながら、文化活動への積極的な参加を促進することを目的として毎年開催。 ・第一部で「伊達佑介ピアトリオ」が、みんなで楽しめるジャズの演奏を披露。第二部では、東京都交響楽団が「オーケストラで巡る情景散歩」と題し、クラシックの名曲を披露。 ・当日は、約1,500人が来場し、アンコールでは、東京都交響楽団の伴奏で合唱するなど、出演者と会場が一体となって、演奏を楽しむ。	公益財団法人日本チャリティ協会	東京都新宿区新宿文化センター大ホール	2015年3月1日(年に1回)	1984年頃	<成果・実績> 長年にわたり毎回多数の来場者数をほめる都内の代表的な障害者向けコンサート
11	イベント	藝大アーツ・スペシャル2015 ~障がいとアーツ~	○	○	○	○	○	●	●	・障害を持つ方々と分け隔てなく美術や音楽を楽しめる空間を提供し、現代社会に適合した芸術の可能性を探求している。5回目となる今回(2015年)はカンボジアを代表する視覚障害の音楽家を招き、また世界的ヴァイオリニスト和波孝福のもと視覚障害の演奏家と東京藝術大学学生による室内合奏団を結成。同時に特別支援学校と共同制作を行った成果を楽堂の舞台上で発表し、コンサート、シンポジウム、ワークショップのほか、藝大に新設されたArts & Science LABにおいて展示会も開催する。 ・メイン・コンサートでは、映像と音楽のコラボレーションのほか、障害者にオーケストラの中に座っていただき、「共に生きる」力を体感する。	東京藝術大学	東京都台東区東京藝術大学楽堂	2015年12月5,6日(年に1回)	2011年	<成果・実績> 2日間にわたるイベントで、延べ1000名程が来場(2015年度)。 <プログラム(活動内容)> 美術、音楽、パフォーマンスアーツなど障害者アーツを総合的に扱う。 <サポーター> 協賛14社、協力10団体、後援8団体など多岐にわたる企業や団体からの支援を受けている。
12	活動	座・スーパーマーケット	●					●	●	・音楽や朗読や地域のネットワークづくりを目的に活動し、障害者によるサロンコンサートも随時実施している。 ・代表が中途視覚障害者のため、視覚障害者も健常者も同じように楽しめる企画を展開している。地域のネットワーク作りとバリアフリーな文化活動を行い、地域のボランティアグループと連携し、障害者も健常者も一緒に楽しめるバリアフリーな文化活動(音楽会、バリアフリー上映会など)を企画・実行。 ・てくてくラジオ(微弱電波音声案内システム)普及活動に努めるなど、視覚障害者に便利なグッズの紹介・普及活動を行ない、健常者と障害者の格差是正に努めている。	座・スーパーマーケット	東京都葛飾区かめありホールほか	常時	2000年	<成果・実績> 活動は新聞各社やテレビ・ラジオに取り上げられて大きな反響を呼んでいる。主な活動は2006年3月映画「こんぼん」字幕付きバリアフリー上映会(かめありリリオホール)以後、全国各地での字幕付き音声バリアフリー上映会普及活動を行っている。2007年てくてくラジオ(微弱電波音声案内システム)普及活動や商店街への設置。以後、言葉で障を見せる活動を行っている。2007年、2008年8月、2009年12月、2010年3月、亀有リリオホールにてバリアフリーワンコインコンサート。また、2009年よりアジアの視覚障害者留学生に日本文化を学んでもらおうと、着物体験会を自宅サロンで行うなど、活動の幅も広がっている。
13	イベント	GGランドフェスティバル	○	○	○	○	○	●	●	・ロック、ポップスを中心とした著名アーティストが出演する音楽イベント。日本初の障害者が主催するエンターテインメント事業で、障害の有無に関わらず、誰もが能力や個性を発揮できるノーマライゼーション社会の実現を目標に掲げている。 ・同イベントのモデルは、デンマークで開催されている野外音楽祭「グリーンコンサート」。複数の著名なアーティストがデンマーク国内約8カ所をツアーでまわる音楽フェスティバルで、障害者団体「デンマーク筋ジストロフィー協会」が主催している。 ■開催概要 ・出演アーティスト:クレイジーケンバンド/島袋寛子/二人目のジヤナ/MORISHIN ・料金: 座席指定6,000円 / スタンディング5,000円	GGランドフェスティバル実行委員会、NPO法人日本バリアフリー協会	東京都江東区豊洲PIT	2015年4月17日(2015年は第2回目)	2013年	<広報> クレイジーケンバンドなどのロック、ポップスを中心とした著名アーティストが出演することで広く社会に発信している。 2015年度の当日観客動員数は1,207名。協賛・後援・協力の法人多数。 <関係者> 応援サポーターとして法人・個人からの協賛を募っている。権利としてはロゴマークの使用、HPやチラシでの掲載、バックステージ見学など。 「障がい者が、支援やサービスを受ける側ではなく、サービスを提供する側になる。継続的な事業を生み出すことで、就労を増やす活動にご賛同いただける法人・団体・個人様を募集しております。ぜひ、日本初のこの画期的なプロジェクトを世の中に広めてください。」(HPの協賛募集ページから抜粋)
14	イベント	国際障害者ピアノフェスティバル	○	○	○	○	○	●	●	・身体に障害のあるピアニストが、課題曲によるピアノコンクールを行うAコースと、各自の得意な自由曲を演奏し、来場者とともにピアノを楽しむBコースの、二つのコースが実施。いずれのコースも、国際的な応募者のバランスと許容時間の範囲を基に実行委員会が推薦したものが、2015年7月22日の「アジア・汎太平洋国際障害者ピアノフェスティバル」(東京(前ピアノパブリック))に集い、ピアノ演奏を披露。	NPO法人CIPFD(国際障害者ピアノフェスティバル委員会)	東京都台東区東京文化会館	2015年7月22日(年に1回)	2005年	<目的> 「障害があってもピアノは弾ける！」を合言葉に、次の目的をもって活動している。 1. ピアノを学ぼうとする障害者に音楽指導を行う者が集い、その教授法の研究・開発を行う 2. 会員の相互啓発を通して、音楽家、指導者としての資質向上を図る 3. さらに、総合的な教育に役立て、音楽文化の発展、人類の幸福のために寄与することを目的とする <資金繰り> 200名ほどの年会費(3000円)と寄付金で運営している。
15	イベント	コバケンとその仲間たちオーケストラ	●					●	●	・プロ・アマ・年齢を問わず、活動趣旨に賛同する不特定多数の演奏家達とそれを支えるスタッフから構成され、知的発達障害のある方々を招いて生の演奏を聴いていただくためにボランティアコンサートを行ってきた。2010年より当活動に賛同する障害のある演奏家もオーケストラに参加。	コバケンとその仲間たちオーケストラ	東京都港区サントリーホール	不定期	2010年(障害者が演奏家として参加し始めた年)	<広報> 著名指揮者である小林研一郎氏の地名度でコンサートの認知を高めている。

# 3.2. 活動一覧 (3/3)

No	類型	名称	主な対象障害				主な対象者 障害者・健常者のみ 含む	活動形態 鑑賞型・参加型	内容	実施団体	開催地	開催時期/頻度	開始年度	特徴
			知的	視覚	聴覚	肢体								
16	イベント	観い合い、助け合う コンサート 2014	●					2004年度『視覚障害音楽家(演奏・教授)リスト——羽ばたけ視覚障害音楽家たち』(改訂版)を点字と墨字で作成し、全国の関係者に配布。以後3年間は年3回、うち1回は東京、2回は地方の政令指定都市で、計7都市9会場でコンサートを開催。地元の関係団体や施設関係者からの支援により、出演者として地域の若い音楽家にスポットを当てることができ、2007年度からは年1回、東京での開催を続けている。 ■出演者 木村 りさ(ピアノ)、木村 りえ(ピアノ)、川端 みき(ソプラノ)、踊 正太郎(津軽三味線)、コール・トゥインクルスター(女声コーラス)、三好 明子(ピアノ)	主催：社会福祉法人視覚障害者支援総合センター 助成：公益財団法人JKA	東京都杉並区 西成地域区民センター・勤労福祉会館ホール	2014年10月25日	2003年	<目的(背景)> 1987年創設以来、ほぼ毎年、視覚障害音楽家のコンサートを開催。1996年、社会福祉・医療事業団(現・独立行政法人福祉医療機構)の助成を受け、全国初の『視覚障害音楽家リスト』を作成すると共に、2年にわたって「夢に向かってパートI—視覚障害音楽家によるコンサートと交流会—」(個人)とこの「パートII」(グループ)を実施。その成果と評価が高かったことで、2003年に公益財団法人JKAの本事業の助成を申請し承認を得る。 <資金繰り> 公益財団法人JKA助成補助事業「平成26年度障害を持つ人が幸せに暮らせる社会を作る活動補助事業」からの提出金で運営。 また当日のチケット代からの収入も充当(一般3000円、学生2000円、ペア3500円)。	
17	活動	横浜ラポール	○	○	○	○	●	●	社会福祉法人横浜リハビリテーション事業団	神奈川県横浜市 横浜ラポール	常時	2006年	<関係者> ・芸術文化都市として、自治体が積極的に予算を割き、障害者への芸術文化振興を図っている。 ・地域のライオンズクラブによる寄席や、地域のボランティアによるコンサートも実施。	
18	活動	サルサガムテープ	●				●	●	NPO法人ハイテンション	神奈川県厚木市	常時	1995年	<目的> 知的障害者をメンバーに含むロックバンドグループがその活動をきっかけに福祉サービス事業を行い、障害者をはじめ、社会参加に課題がある人や広く一般の人達が、芸術表現活動により、地域の中で豊かな暮らしを営むことを支援していく。	
19	活動	洗足学園音楽大学附属音楽感受研究所		●			●	●	洗足学園音楽大学附属音楽感受研究所	神奈川県川崎市	常時	2001年	<目的> 聴覚障害のある人が音楽を楽しめるような先端技術の研究	
20	活動	楽団「ケ・セラ」					●	●	NPO法人ケ・セラ	長野県松本市	常時 (年に40公演)	2003年	<資金繰り> 会員の方を随時募集。会員には会報を届けたり、年度末に行う「ケ・セラ感謝祭」に招待し、普段のコンサートとは違う楽しみ方を提供。有料コンサートの会員割引がある。 *個人年会費(賛助会員)2000円 *団体・企業年会費5000円	
21	イベント	第14回糸賀一雄記念賞音楽祭	○	○	○	○	●	●	社会福祉法人グロー	滋賀県栗東市 栗東芸術文化会館きらら大ホール	2015年11月1日 (年に1回)	2002年	<目的> 障害者の基本的な人権の尊重を基本に、生涯を通じて障害者福祉の向上に取り組まれた、故糸賀一雄氏の心を受け継ぎ、障害者やその家族が安心して生活することができる社会の実現に寄与することを目的として、障害者福祉の分野で顕著な活動をされている個人および団体に対して授与される「糸賀一雄記念賞」。その受賞者を県民でお祝いすることを目的に、糸賀氏の理念に共感する福祉、芸術文化の関係者が分野を超えて集結し、2002年に本音楽祭が始まった。	
22	イベント	こらべ障害者音楽フェア2015ジョイフルコンサート	○	○	○	○	●	●	こらべ障害者音楽フェア実行委員会	兵庫県神戸市 神戸新聞松方ホール	2015年12月23日 (年に1回)	2006年	<関係者> 神戸市の教育委員会や社会福祉協議会、障害者関連団体のほか神戸新聞、NHK等のメディアなど多岐にわたる機関が主催・後援に名をつらね、企業連携による協賛も得ている。	
23	活動	音遊びの会	●				●	●	音遊びの会	兵庫県神戸市 神戸大学	常時 (月に2回)	2005年	<関係者> 著名ギタリスト大友良氏が結成直後から支援し、2013年の海外遠征にて、ロンドンではイギリスを代表する即興音楽の専門のライブハウスで公演、耳の肥えたロンドンの人々から熱狂的な拍手を受ける。	
24	活動	旭川荘ミュージックアカデミー	●				●	●	社会福祉法人旭川荘	岡山県岡山市 旭川荘	常時	2008年	<関係者> 同市内の企業の支援で楽器を購入し、同大音楽学部の学生が指導。	
25	イベント	アジアシンフォニー「KIRAKU」	○	○	○	○	●	●	社会福祉法人「ゼノ」少年牧場	広島県福山市	常時	1986年 (2010年休止)	<成果・実績> 小学校や中学校の依頼を受け、年に10回以上教育関係のコンサートを行うとともに、幼稚園・老人施設など多数の、慰問公演(励ましコンサート)を行っていた。	

# 3.3.1. 詳細①：ゴールドコンサート/GCグランドフェスティバル

団体名  
特定非営利活動法人 日本バリアフリー協会

設立  
2008年

所在地  
東京都千代田区平河町1-7-16 ビュロー平河町801号室

理念  
障がいは大きなニーズを生み、社会を発展させる。  
この考えを、我々障がい者自身が事業を立ち上げ、実践する。  
「わかりやすく楽しい事業」に、  
様々な分野からたくさんの人々に参加してもらい、  
闘うことはせず、実力を蓄え、賛同する仲間をどんどん増やす。  
障がい者に対する一般的な見方をポジティブにし、  
先端技術の発展に貢献することにより、  
我々障がい者だけでなく社会全体を豊かにする。

活動内容  
・ゴールドコンサート及びGCグランドフェスティバルの企画運営など障がい者の音楽支援  
・障がい者に関わる総合学習の支援  
・ジョイスティック車の普及

(HPより抜粋、参照)



# 3.3.1. 詳細①：ゴールドコンサート

## 目的

障害を持つミュージシャンの方々にその音楽性を競っていただくとともに、障害者の能力や可能性の高さを広く知らしめることで、一般社会における障害者への偏見を正し、健常者とのバリアをなくすこと。

## 活動内容

全国及び海外から選抜された約10組が東京国際フォーラムにて開催される本戦に出場しグランプリを競う。審査は音楽性・完成度の高さを重視。本戦において、グランプリ、その他各賞を決定。グランプリ受賞者には、音楽活動支援金として賞金30万円を贈呈。

また障害を持つ来場者への合理的配慮(車いす席設置や手話・パソコン文字通訳等)、特別支援学校の児童・生徒の無料招待なども行っている。その他関連事業として以下を実施。

- ・ロビーコンサート: 都心の複合施設のロビーやカフェ・ラウンジなどで定期的に開催するミニコンサート。
- ・学校に行こう!: 特別支援学校で行うゴールドコンサート受賞者のミニコンサートや講演会・ワークショップなど。
- ・サポート講習会: 障害者を講師として招き、ボランティアスタッフの育成を行う講習会を開催する。

## 対象

- ・障害を持った音楽家
  - 障害の種類(身体・知的・精神・発達等)不問
  - グループの場合、メンバーのうち障害者が主な役割を占めていること
  - プロ/アマ、年齢、性別、住所、国籍不問

## 関係者

- ・特別ゲスト・審査員・舞台関係者を含め、多くの企業・団体・ボランティアの協力によって運営。
- ・後援: 文部科学省、厚生労働省、社会福祉法人NHK厚生文化事業団 他
- ・協賛企業約20社

## 場所、設備

本戦: 東京国際フォーラム

地方大会(予選): 仙台、関西、福岡、沖縄(各会場先着50組の中から優勝者が本戦出場。落選しても音源エントリー枠から再応募可)

## 成果・実績

- ・来場者数は、過去12回の累計で9,479名。
  - 2013年度(10周年記念): 1045名
  - 2014年度: 512名 (Jストリーム、Ustream総アクセス数2000件)
  - 2015年度: 776名 (Jストリーム総アクセス数870件)
- ・特別ゲスト出演
  - GOMA(第12回)、東儀秀樹(第3回、第10回)、NOKKO・嘉門達夫(第9回)、島津 亜矢(第8回)、相川七瀬(第7回)、SPEED今井絵理子(第6回) 他
- ・ビデオメッセージ
  - スティービー・ワンダー、デビット・サンボーン 他
- ・取材メディア
  - NHK、フジテレビ、TBS、読売新聞 他
- ・その他
  - 出場をきっかけにビクターエンタテインメントよりメジャーデビューを果たす者を輩出し、その後の音楽家の活動の拡大にも協力。

## 広報

- ・facebook、TwitterなどのWebマーケティングによる拡散
- ・プレスリリースによるパブリシティ

## 資金繰り

- ・競輪からの助成金(収入の約半分)
- ・プレミア協賛: 法人100万円以上の資金
- ・資金協賛: 法人1口10万円～、個人1口1万円～

## 特徴

- ・主催側が障害者である。出演者や観客でもある障害者への対応も労わり視点ではなく、敢えて厳しくしている(例: チケット代も有料、出演者も終日拘束)
- ・審査員には湯川れい子氏(審査員長)をはじめ音楽業界で活躍されている方々をお迎えし、グランプリ受賞者の中にメジャーデビューされた方もいるなど、注目も高まっている。
- ・知的、身体、精神、発達等あらゆる障害者を対象としている。
- ・本戦参加にかかる日本国内での交通費は、障害者については主催者が全額支給、同行介添者については一部支給。
- ・海外からのミュージシャン招へいなど、日本国内だけでなく、世界にも目を向けて幅広くミュージシャンの発掘を行っている。
- ・移動困難な方や遠方の方のために、第3回ゴールドコンサートより「インターネット生放送」を開始。第8回ゴールドコンサートでは総アクセス数2084件を果たす。またネット投票も実施(しくみ: 生放送ページ・出場者一覧ページ・各出場者のページに投票ボタンを設置)
- ・子供はチケット代無料。
- ・観客の障害者と健常者の割合は1:7ぐらいと通常の障害者イベントに比べて障害者の参加率が高い。
- ・協賛企業へは実施報告をきちんと行うことで次回以降の継続協賛につなげている(毎年1200部作成し当日の様子を収めたDVDも添付)。

## 課題や今後の展望

- ・ヒト/モノ/カネが慢性的に不足。
- ・障害者の間では徐々に認知されてきているが、一般人の認知・理解が低いいため、集客に苦戦。
- ・当行事をやらなくても済むような社会を理想とする。

# 3.3.1. 詳細①：GCブランドフェスティバル

## 目的

日本初の障害者が主催するエンタテインメント事業として、障害者自らが事業を行い、働く場を増やすことを目指す。

## 活動内容

ロック、ポップスを中心とした著名アーティストが出演する音楽イベントで、コンサートのみならず、フォトセッションやブース出展、障害者による生産物のフュージョンマーケットなどを実施。

- ・出演アーティスト  
クレイジーケンバンド/島袋寛子/二人目のジャイナ/MORISHIN
- ・フォトセッション  
田原総一郎/野田聖子/湯川れい子ほか

## 対象

<運営>  
・障害者

<観客>  
・一般  
・障害者

## 関係者

- ・著名人などによる実行委員ほか、オフィシャルスポンサーとして、NTTデータや沖電気、日本郵政、TOYOTAなど約10社が支援。
- ・NPO、財団、大学、企業など18団体から協力
- ・厚生労働省、東京都、神奈川県、宮城県をはじめ10以上の団体から後援

## 場所、設備

豊洲PIT(東京)

## 成果・実績

- ・来場者数  
-2013年度(第1回):884名  
-2015年度(第2回):1207名
- ・取材メディア  
日経新聞、読売新聞、朝日新聞、NHK、日本テレビ、スポーツニッポン、AERA他多数
- ・企業からは興行事業として捉えもらいその広告価値を認めてもらっている。

## 広報

- ・facebook、TwitterなどのWebマーケティングによる拡散
- ・プレスリリースによるパブリシティ

## 資金繰り

- ・当日の入場料として、座席指定6,000円/スタンディング5,000円
- ・オフィシャルスポンサーからの広告費
- ・応援サポーターとして法人・個人からの協賛を募っている。権利としてはロゴマークの使用、HPやチラシでの掲載、バックステージ見学など。

## 特徴

- ・障害者自らが運営に携わっている(約20名)。
- ・HPや各種制作物も障害者によるものである。
- ・チャリティーやボランティア事業ではなく、あくまでも興行ビジネスとして実施している(企業からのファンディングも消費税込み)。
- ・行政、企業、メディア、教育機関、地域、そしてアーティストなど多岐にわたるステークホルダーや関係者連携している。

## 課題や今後の展望

- ・興行イベントとしての認知度向上と集客が一番の課題。
- ・複数アーティストが出演する音楽フェスティバルとして定着させるため、観客層、アーティスト陣、収益性、組織の枠組みなどの適切なスキームを模索中。チャリティーイベントでもなく、プロによる興行イベントでもない、独自のスタイルを目指す。
- ・障害者がステージ設営にも関わられるようにもしたい。

## 3.3.2. 詳細②：藝大アーツ・スペシャル～障がいとアーツ～

### 目的

障害を持つ方々と分け隔てなく美術や音楽を楽しめる空間を提供し、現代社会に適合した芸術の可能性を探求すること。

### 活動内容

東京藝術大学による障害者の芸術活動フェスティバル。ブレ4日間、メイン2日間にわたり、以下のようなプログラムを実施（日時は2015年度）。

■12月1日～12月4日  
・アール・ブリュット展

■12月5日（土）、6日（日）  
・特別支援学校生徒と藝大学生の共同制作による作品発表  
・アジアの障害者アーティストの発掘および紹介  
・障害に関わる研究者によるシンポジウム  
・障害者のための美術ワークショップ、音楽（邦楽を含む）ワークショップ



### 対象

- ・障害者とその家族
- ・教育関係者
- ・芸術専攻の学生
- ・障害者向け機器を扱う企業関係者

### 関係者

- ・東京藝術大学（演奏芸術センター、COI拠点）
- ・協賛14社
- ・協力10団体
- ・後援8団体（日本財団パラリンピックサポートセンター、国際交流基金アジアセンターほか）

### 場所、設備

東京藝術大学奏楽堂、Arts & Science LAB.

### 成果・実績

#### <実績>

- ・来場者数（2日間）  
2013年度：延べ約600名  
2014年度：延べ約650名  
2015年度：延べ約1000名

- ・協賛/協力/後援 団体数  
2013年度：17団体（うち協賛5社）  
2014年度：19団体（うち協賛5社）  
2015年度：32団体（うち協賛14社）

#### <成果>

- ・ヤマハ(株)と東京藝大COI「障がいと表現研究グループ」の共同開発により自動演奏機能付きピアノ（発明名称：ペダル駆動装置）を特許出願。手足に障害を持つ者がピアノ演奏する際、右手の演奏に合わせて左手の伴奏パートおよび足踏みペダルを自動的に追従させて、その演奏をサポート。

### 広報

- ・HPでの掲載
- ・関係者へのパンフレット配布
- ・ラジオ番組での告知

### 資金繰り

- ・企業等からの協賛金
- ・文部科学省COI拠点の研究費

### 特徴

- ・知的、身体、聴覚、視覚、精神、すべての障害者を対象としている。
- ・美術、音楽、パフォーマンスアーツなど障害者アーツを総合的に扱う。
- ・コンサートの構成をはじめ、各分野の出演者はプロをそろえるイベントのクオリティが非常に高い。
- ・東京藝大の年間授業「障がいとアーツ」の成果発表も兼ね、授業の履修学生による演奏や展示のみならず、当日の障害者サポートなど学生の教育の場でもある。
- ・多岐にわたる企業や、地域の団体、障害者団体、財団、大使館など様々なステークホルダーから支援を受けている。

### 課題や今後の展望

- ・毎年協賛金の確保で苦労している。
- ・来場者数の増加につながる効果的な広報を模索。
- ・障害者によるアーツの機運を盛り上げるための中長期的な戦略が必要である。
- ・アジア諸国との連携を図り海外の障害者との交流促進も目指す。



## 4. パフォーマンスアート

---

## 4.1. 概要

---

パフォーマンスアートは、バレエ、ダンス、演劇、手話、伝統芸能などをはじめ幅広いジャンルがあるため、ジャンルごとに対象障害者が多岐にわたるのが特徴である。

その活動は70年代から目立ち始め、80年代には聴覚障害者による劇団やパフォーマンス団体が発足し、90年代にはコンテンポラリー・ダンスの出現・浸透とともに、各地で様々なダンス・ワークショップが展開されてきた。

これらは障害者のためのメディケーションやカウンセリングを意図したものもあるが、昨今ソーシャルインクルージョン※が提唱されるなか、障害の有無に関係なく参加者のあるがままの状態、すなわち異なる身体性の融合からクリエイティブなパフォーマンスが生まれることに主眼が置かれているものも多い。

2004年からは5年間のプログラムで「エイブルアート・オンステージ」が始まり、以降、多様性がもたらす相互作用によるパフォーマンス自体に価値を置く傾向が強まってきている。

今回の調査では、音楽部門同様に障害者による参加型の活動に主眼を置くこととし、個人でプロとして活動しているパフォーマーは対象外とした。

調査結果から、美術や音楽と比較して、パフォーマンスアートは様々な活動形態があるため、対象障害が幅広く、特に肢体障害者による活動の割合が高いことがわかった。

なお、海外では日本財団が、ラオス、ベトナム、カンボジアにおいてASEAN障害者芸術祭を開催してきており、2014年の国際障害者デー(12月3日)では、ミャンマーのヤンゴンにてアセアン9カ国から合計168人の芸術家たちが集い様々なジャンルでの舞台芸術を発表し、4日間で合計6500人を超える来場者を記録した。車いすダンサーによる伝統舞踊(カンボジア)、聴覚障害者によるポップダンス(シンガポール)、視覚障害者のロックバンド(タイ)などや、日本からの特別ゲスト甲州ろうあ太鼓(聴覚障害)のパフォーマンスも披露された。

※「全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合う」という理念。

# 4.2. 活動一覧 (1/5)

【注】※1記載順は開催地を基準とした(全国→複数→都道府県)  
 ※2「イベント」は一時的な取組み、「活動」は定常的な取組み  
 ※3「○」は対象障害が不特定  
 ※4「鑑賞型」は受動的な関与、「参加型」は能動的な関与  
 ※5詳細リサーチの項目に準じた特徴を明記  
 (以降のページも同様)

No ※1	類型 ※2	名称	主な対象障害※3					主な対象者 障害者:健全者 のみ:含む	活動形態※4 鑑賞型:参加型	内容	実施団体	開催地	開催時期/頻度	開始年度	特徴※5
			知的	視覚	聴覚	肢体	発達								
1	イベント	★第16回日本太鼓全国障害者大会	●	●			●	●	全国から障害を持つ方とその家族や施設関係者で構成された34チームが参加し、情熱溢れる太鼓の音色で約1200人の観客を魅了(2014年度)	日本太鼓財団(日本財団が支援)が主催、富岳会が共催	毎年持ち回りで実施(2015年は石川県こまつ芸術劇場うらら)	2015年10月4日(年に1回)	1998年	<成果・実績> 『日本太鼓資格認定制度』では、障害者の方が健全者の方と同じ試験を受けて、すでに60名が合格し、3級の指導員も生まれました。これはとても素晴らしいことです。そして海外でも、2013年から行われている『ミヤマー障害者芸術祭』に、2年連続で甲州ろうあ太鼓のチームが参加しています。耳の聞こえない人でも太鼓の演奏ができるということは、アジアの障害を持つ人々にもとても大きな力を与えているようです(日本太鼓財団の塩見和子理事長、2014年の第16回大会にて)	
2	イベント	★みんなあーと2015	●				●	●	全道の施設、事業所、学校、作業所にてダンスや楽器、絵画や工作などの活動をしている知的障害者が一同に会する発表の場。 ■展示部門 ■貼り絵、切り絵、造形・手工芸など438点 ■ステージ部門 トーンチャイム、太鼓、琴、日本舞踊、オペレッタ、ダンス、手話ソング、ピアノよさこい、フラダンス、演劇	北海道知的障がい福祉協会	北海道札幌市かでの2.7	2015年9月3日～5日(年に1回)	2001年	<プログラム(活動内容)> ステージ部門では多岐にわたるパフォーマンスアーツが披露され、伝統芸能も含まれる稀有なステージ。	
3	活動	みやぎダンス	●				●	●	インクルーシブなダンスパフォーマンスを目指し、健全者も身体障害者も知的障害者も皆で一緒につくる芸術活動を推進。 オープンクラス、ステージクラス、カンパニークラスなどのクラスを設けワークショップなども行っている。	NPO法人みやぎダンス	宮城県仙台市	常時	2005年	<成果・実績> 90年代からボディワークを取り入れたカウンセリングの学習会グループ「仙台からだところの会」として障害者とのダンス・ワークショップを実施し、のちに「みやぎダンス心体表現の会」(98)「みやぎダンス」(2005)と団体名称変更をし、理念も「inclusive dance for all」として発展。	
4	イベント	第6回埼玉県障害者アートフェスティバル	○	○	○	○	○	●	障害者が創り出す作品の「芸術性」「創造性」にスポットライトを当て、その社会的評価を高め、将来的には障害者の社会参加や経済的自立に結びつけていくことを目指し、以下のジャンルでイベントを開催。 ■舞台芸術 近藤良平と障害者によるダンス公演「いつまでも 親のすねは かじれない」。 ■美術 障害者アート企画展。県内の障害のあるアーティストの作品を展示した展覧会。 ■音楽 バリアフリーコンサート。ピアニスト田村緑氏が障害者アートのイメージに合わせて演奏するほか、クラシックの名曲を演奏	埼玉県障害者アートフェスティバル実行委員会(共催:埼玉県障害者交流センター、公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団(舞台芸術))	埼玉県彩の国さいたま芸術劇場埼玉県近代美術館	2015年12月5日～20日(年に1回)	2010年	<資金繰り> 社団法人(一般社団法人埼玉県経営者協会、一般社団法人生命保険協会埼玉県協会)や地元金融機関((株)埼玉そな銀行、(株)武蔵野銀行、埼玉県信用金庫)などからの協賛で運営。	
5	活動	劇団SPARK						●	運動による発達障害児の支援プログラムを実施。体のコントロールを重視する「スタジオ・スパーク」、自然の中で思い切り体を動かす「フィールド・スパーク」、そして本物のパフォーマンスを見て感じる「療育アート」で構成されている。その中で脳の発達を促すために有酸素運動、コントロール、バランス、コーディネーション、アテンションを軸とした豊富な運動メニューを提供している。	スパークカンパニー株式会社	東京都スパークスタジオ初台・羽根木・代々木公園・喜多見	常時	1997年	<場所> 都内に8か所のスタジオを有し、常時見学を受け付けている。 <資金繰り> 利用者の会員制であり、90%は公費で賄われている。	
6	活動	西東京アクターズスクール	○	○	○	○	○	●	舞台表現の新たな可能性の実現のためにダンス・歌・映像などの表現を通して、国籍・年齢・障害の有無、経験未経験を問わず参加者すべてが輝くことのできる斬新で独特の魅力にあふれた舞台芸術の創作を試みるスクール。 ■西東京アクターズスクール:1~2年かけてオーディション、ワークショップ、修了公演を実施(2014年の第9期で終了) ■オリジナルプランに基づくワークショップ ■AIR Atage Work:パフォーマンス、ダンス、演劇、ライブなどの企画・制作 ■ダンスギャザリング:思いのままに自由に踊る ■フォーラム・研究会:パフォーマンスアーツの作品、作家をめぐって表現のエッセンスを探る	AIR-空パフォーマンス・アーツ研究会	東京都八王子市	常時	2004年	<資金繰り> (以下は、西東京アクターズスクールの活動) 広く企業や商店、個人から協賛・助成金、広告掲載料、寄付等の支援を受ける。さらに5期連続して企業メセナ協議会助成認定活動として認められ数社の企業から資金援助を受けることで公的補助を得ずに自立運営していた。 さらにパブリシティ担当を置き、Webにて広報活動やファンレタリングを図った。	
7	イベント	Integrated Dance Company 晋-Kyo						●	障害のある人、無い人がそれぞれ異なる身体の動きや、車椅子の動きの特性を活かしながらダンスをつくっていくワークショップ。 上記以外にも事務局のミュージカンパニーでは、以下のような活動を推進している。 ■参加体験型アート・ワークショップの企画制作 クリエイティブ・ダンス・ワークショップ(以下WS)、創造的な音楽WS、クリエイティブ・ライティングWS、墨絵アートWS、ネイチャー・アートWS、視覚を超える造形WS、美術WS、演劇WSなど ■海外の芸術団体(教育団体、アーティスト、ワークショップ・リーダーを含む)のマネージメント業務	クリエイティブ・アート実行委員会(事務局:ミュージカンパニー)	東京都都内にある文化センターなど	常時	2001年	<資金繰り> 様々な企業と対話を重ね、以下のように多方面にわたり支援を受けている。 ■これまで助成・支援を受けた団体及び企業 ブリティッシュ・カウンシル、国際交流基金、大和日英基金、ローム・ミュージック・ファンデーション、野村財団、森村豊明会、グレートブリテンササカ財団、トヨタ自動車、松下電器産業、伊藤忠商事、資生堂、KOA、東し、ペネドゥン・ジャパン 他 <関係者> プロジェクトごとに有給スタッフやインターン/ボランティアなどを募集している。	

# 4.2. 活動一覧 (2/5)

No	類型	名称	主な対象障害				主な対象者 障害者・健常者 のみ・含む	活動形態 鑑賞型・参加型	内容	実施団体	開催地	開催時期/頻度	開始年度	特徴
			知的	視覚	聴覚	肢体・発達								
8	イベント	サマー・アート・スクール2015	●	●	●	●	●	ひとりひとりが創造的な自分自身を“探検する場”としての各種アートワークショップを提供。障害の有無を超えて共に創造するプロセスの中で、それぞれの異なる感性や創造性を分かち合い、学び合うことにより新しいアートの可能性を探る。 ■サインタイム・ワークショップ ■関わりが生むダンス・ワークショップ(インテグレイテッド・ダンス・カンパニー-響-Kyoといっしょに踊ろう) ■創造的な声と動きのワークショップ CREATIVE MUSIC ■「つくる気持」ワークショップ Visual art ■視覚を超える造形ワークショップ(—触覚を探索し、質的イメージを作品化する Beyond Vision)	クリエイティブ・アート実行委員会(事務局:ミュージカンパニー)	東京都 芸能花伝舎、月島社会教育会館、日本橋社会教育会館ほか	2015年7月25日～9月6日 (年に1回)	1999年	<資金繰り> 各ワークショップにて大人や指導者の参加費を相対的に高くすることで、行事の運営資金を賄う。 <プログラム(活動内容)> 視覚・聴覚・肢体など様々な障害者が参加できるバラエティに富んだワークショップを用意。	
9	★	日本ろう者劇団		●		●	●	・ろう者の俳優が、日本の伝統芸能でユネスコの世界無形遺産にもなっている狂言や、そのほかの演劇を手話で演じ、全国各地で公演、テレビにも出演して手話の普及につとめている。また世界の色々な国から招かれて、手話狂言を披露している。 ・和泉流狂言師三宅右近師の指導により、昔から継承された狂言特有の動き、運び足をもとに、手話表現の研究を重ね、古典芸能にふさわしい手話狂言を作っている。 ・手話狂言、創作劇、ムーブメントシアター、サインタイム(サイン(手話)とバンドマイムの特徴を合わせてつくり出された表現方法)等劇団独自のレパートリーを持って全国各地を公演。 ・年に36回、各4つのクラス(初級、中下級、中上級、上級)で手話教室を実施。受講料は1ヶ月5000円。	社会福祉法人トット基金	東京都品川区 トット文化館	<公演>常時 <教室>各クラス年に36回	1982年	<成果・実績> 1983年 伊・パレルモで開催された世界ろう者会議・演劇祭典に参加。「手話狂言」 1987年 第8回松尾演劇賞演劇特別賞受賞「手話狂言」 昭和62年度文化庁芸術祭賞受賞「手話狂言」 1998年 国際交流基金の助成を受け、ロシア・ドイツイ・ハンガリー公演(「手話狂言」) 2002年「アジア太平洋障害者の10年」最終年記念の集いで、内閣総理大臣表彰を受ける 2004年 オリンピック開催を記念して行われた「ギリシャにおける日本文化年2004」に参加し、アテネで「手話狂言」の公演を行う。 2013年 仏クランドリュ芸術祭の名誉招待団として招かれ手話狂言披露。あわせてロンドン公演を行う。	
10	活動	STUDIO SD.S	●			●	●	ダンスを通じて子供から大人まで、一人一人が自分自身の可能性と未来を広げるためのプログラムを提案。心とからだを開放し「踊る」事でハードルを飛び越え、何かを始めのきっかけを目指す。 ■大人クラス(中学生～):ストレッチ体操、ビューティーヨガ、シェイプアップダンス/バレエ、IPHOP、JAZZ 自分のニーズに合ったプログラムを自由に選ぶ。ダンステクニックの習得・優位のバリエーション・ストレッチ・美しい姿勢・いつまでも美しくありたい等。 ■Kids、Jr.クラス(4才～小学生対象):JAZZ、HIPHOP、バレエ、チア、体操夢と目標をもち、心と運動能力の向上・感性を養う。レッスンや発表会の場を通して、協調性・自主性・礼儀を身につけ、何よりも自分の言葉で声をだし気持ちを表現できることを目指す。	STUDIO SD.S	東京都墨田区 STUDIO SD.S	常時	1999年	<資金繰り> 以下の地元の法人から支援を受けている。 ■練雅夢コーポレーション、練須田金属製作所	
11	活動	手話パフォーマンスきいろぐみ		●		●	●	・手話の歌を中心とした手話ライブ、歌とお芝居を盛り込んだ手話ミュージカル手話による朗読劇、子供ショーなどで、全国を回る。 ・演目は、すべて手話と音声付き。聞こえる人にも聞こえない人にも同時に楽しんでもらえるよう工夫を凝らしながら演じる。福祉やボランティア団体としてはなく、手話の映像的な魅力や、ステージから伝えるためのアート集団として、手話パフォーマンスに取り組んでいる。 ・キャスト30人のうち半数がろう者。スタッフは10人。	株式会社手話あいランド	東京都世田谷区 世田谷ボランティアセンター	常時	1989年	<成果・実績> 渋谷ハチ公前の路上ライブや、子供むけの手話歌などのDVD、モーニング娘。や、ケミストリーの手話指導。「オレンジアイズ」や「ラブレター」などのテレビドラマ、ハリウッド映画「パレル」の手話指導なども手掛ける。 <資金繰り> 手話教室の受講料や映像・雑誌などへの出演、手話パフォーマンス・講演・講座の出席実施、手話ビデオや雑誌・書籍等の企画構成・執筆活動など多岐にわたる収入源をベースに活動をしている。	
12	活動	みんなのダンスフィールド		●		●	●	・名称は年齢や性別やからだの大小や障害の有無に関わらずすべての“みんな”が自分のからだで自由に創造し、共に表現を創り合う場でありたいという願いが込められている。同時に、身体表現によるinclusiveな美観や経験を生かして、それぞれがいろいろな形のinclusive fieldを、地域社会で築いていきたいという希望を表す。 ・月に2～3回の定期的な活動では、フィールドのメンバーを中心に、多くの見学者(学校の先生、教育や福祉、スポーツの専門家の方々、学生さん、ダンサー等)を迎えながら、一緒に身体を動かしたり、自由に身体で表現することの楽しさを経験する場となっている。	NPO法人みんなのダンスフィールド	東京都新宿区 戸山サンライズ体育館(全常時 国身体障害者総合福祉センター)	(月に2回)	1998年	<プログラム(活動内容)> ダンスフィールドのメンバーそれぞれが、自分達の地域でワークショップを自主的に行う企画を2009年11月より立ち上げる。場所探し、参加者集め、ワークショップのリーダーなど、全てをメンバーが自分達で行う。	
13	イベント	第11回ライブ・パフォーマンス「てあわせパトル・おどる・どるどる」		●		●	●	・2011年に行われた第10回ライブ・パフォーマンスから4年越しの開催。舞台と客席が分かれている劇場型ではなく、自分たちの表現より肌で感じてもらえるように舞台と客席との距離を近づけるために、会場の配置を自由に設計することが出来るアサヒ・アートスクエアで実施。 ・1部では「てあわせ」を通して様々な個性を表現した連作を披露。 2部では石巻から来られた先生も交え「ふるさとのめぐみ」を披露。石巻に流れる北上川の源流からお祭りの花火、海に泳ぐ様々な魚たちを表現し、みんなのダンスフィールドと被災地とのあわせワークショップを通じて出来た繋がりがあってこそこの作品となった。	NPO法人みんなのダンスフィールド	東京都墨田区 アサヒ・アートスクエア	2015年5月17日 (不定期)	1998年	<関係者> アサヒ・アートスクエアのスタッフ、早稲田大学や東洋英和女学院大学の学生などもサポーターとして参加。	

★: 日本の伝統芸能

# 4.2. 活動一覧 (3/5)

No	類型	名称	主な対象障害					主な対象者 障害者:健全者 のみ 含む	活動形態 鑑賞型:参加型	内容	実施団体	開催地	開催時期/頻度	開始年度	特徴
			知的	視覚	聴覚	肢体	発達								
14	活動	日本車いすダンススポーツ連盟				●	●	●	車いすダンスが障害者のスポーツとしてのリハビリテーション効果を追求して、高齢化社会での老人のスポーツとして、また楽しみとして障害者、健全者の境を外し、真のノーマライゼーションを確立させられる運動に発展して行くことを目的に設立された特定非営利活動法人で、全国の車いすダンス教室の紹介や以下の講習会・競技会などを実施。 ・車いすダンス講習会 ・全日本車いすダンススポーツ選手権大会 ・世界車いすダンススポーツ選手権大会(2004年、2013年)	日本車いすダンススポーツ連盟	東京都大田区	不定期(休止?)	2001年	<広報> 全国の車いすダンス教室を紹介。	
15	イベント	エイブルアート・オンステージ	○	○	○	○	●	●	障害のある人たちが演劇、ダンス、音楽などの舞台芸術分野で、表現する機会を提供するとともに、今まで出会うことのなかった人どうしが出会い、お互いのちがいを越えてコラボレーションすることを目指し以下の活動を実施(現在は活動終了)。 ■活動支援プログラム 障害のある人が参加する、さまざまな舞台芸術の取り組みに対して、上限150万円の支援金を提供するプログラム。 2004年から5年間の計画で、毎年6~8グループを支援。支援対象者は各地でグループを立ち上げ、参加者の募集、ワークショップを実施、地元での公演を実施、活動終了後はすべての支援先が集まる報告会で、活動のプロセスや作品の映像を発表。 ■コラボ・シアター・フェスティバル 活動支援プログラムに参加したグループの成果を多くの人に伝え、次に続くグループへ課題を提示する場。 地元公演で発表した作品のうちいくつかを、さらに発展させて上演したり、シンポジウムや展示などさまざまな方法で、各参加団体の成果を伝える。 ■飛び石プロジェクト 2005年に英国のカンパニー、Full Body & The Voiceを招聘しワークショップと公演を実施。2006年2月から、英国の2人の演出家を交互に招き、さまざまな障害のある人や俳優などのアーティストたちとのワークショップを通じて交流し、作品づくりを行う。	エイブル・アート・ジャパン 明治安田生命保険相互会社	東京都	年に1回 (現在は終了)	2004年	<プログラム(活動内容)> 平田 オリザ氏ほか合計7名の実行委員のもと、以下のような幅広い対象者に向けて一定期間にわたる活動支援プログラムを実施。 ①毎年8都市程度(5年間で延べ40都市程度)で、障害のある人とともに、パフォーマンスの可能性を探るワークショップを実施する。グループ・個人に対して、資金面、運営面でのサポートを行う。 ②各グループはそれぞれ、演劇、ダンス、音楽をはじめさまざまな表現ジャンルのワークショップやレッスンを行い、お互いにその可能性を探ったり発見する。 ③各グループはその活動の途中経過の報告や、まとめとして、公演をはじめとする発表を行う。(3月~4月) ④各グループは東京での公開プレゼンテーションに参加し、それまでのプロセスや発表した作品を多くの人と共有する。(6月初旬) ⑤各グループのうちいくつかのグループを、東京で開催する「コラボ・シアター・フェスティバル」に招聘し、多様な表現のありかたや可能性を提示してもら。(秋)	
16	イベント	★バリアフリー能		●	●		●	●	・多様なサポートを用意することで、障害者にも気軽に能や狂言を楽しんでもらうことを目的とした企画。 ・演目は、太郎冠者が鎌倉中の鐘の音を聞いて回る様がおもしろい狂言「鐘の音」と、山伏が鬼神に出会い、天界から地獄の底までを映す鏡を見せてもらう能「野守」。 ・サポートは点字ちらし・パンフレット、メールパンフレット、詞章(台本)の配布、触ることのできる能面展示、能舞台の触面などのほか、公演中の視覚障害者向け副音声、解説時手話通訳、解説時パソコン通訳などが用意されている。また、車いす向け駐車場や介助者無料のサポートも用意。 ・聴覚障害者向けにiPadやプレイステーションポータブルなどの再生機器による字幕の配信も行う。公演中は各席に設置された再生機器の画面に、舞台の口上に合わせた字幕が流れる。	横浜能楽堂	神奈川県横浜市 横浜能楽堂	2015年3月21日 (年に1回)	2002年	<場所> 視覚障害者向けには解説時パソコン通訳。 聴覚障害者向けにはiPadやプレイステーションポータブルなどの再生機器による字幕の配信も行うなどテクノロジーを駆使した鑑賞サポートを実施。	
17	活動	★デフ・パベツシアター・ひとみ			●		●	●	・1980年にひとみ座を母体とした(公財)現代人形劇センター内に誕生し、国際障害者年となった翌1981年から公演活動を開始。ろう者と聴者が協同して公演活動を行っているプロの人形劇集団。 ・目指すものは、以下の3点。 ①障害の有無に関わらず楽しめる人形劇を創ること ②ろう者と聴者の感性を活かして、新しい人形劇の表現に挑戦すること ③大人も楽しめる人形劇を創ること ■公演 ・全くセリフを使わない無言劇・手話語り・字幕・映像・プラカード。 ・仮面劇・パントマイム・お神楽・京劇・日本舞踊。 ・「見て楽しめる。感じられる」フリースタイルのセリフに頼らない人形劇で、観る人の想像力を引き出す。 ・色とりどりの民族楽器、空気を震わす打楽器など、目で見て、体で感じる音楽も取り入れている。 ■ワークショップ(一例) ・楽器にさわってみよう、「音(リズム)」を身体と心で感じてみよう、「音」でお話してみよう、人形劇をみて演奏しよう ・見てあそぼう、表情をつかってあそぼう、受けとってあそぼう ・身近な素材で人形を作ろう!、作った人形で遊ぼう!、人形×手話でお話しよう!	デフ・パベツシアター・ひとみ	神奈川県川崎市 公益財団法人 現代人形劇センター内 (公演は全国で実施)	常時	1981年	<資金繰り> 以下の法人から支援を受けている。 ■バイオニア、キリン福祉財団、日本郵便年賀寄付金、FANCLもつと何かできるはず基金 <関係者> 実行委員会の構成は様々(福祉団体、手話サークル、鑑賞団体など)だが、デフ・パベツの公演準備を通して、バリアフリーな社会を実現するために集まった有志。それぞれの地域の実行委員会が、地域で文化と福祉を結び架け橋となり、これまで実行委員会形式で、約650地域で2500回を超える公演を行ってきた。	

★: 日本の伝統芸能

# 4.2. 活動一覧 (4/5)

No	類型	名称	主な対象障害				主な対象者		活動形態	内容	実施団体	開催地	開催時期/頻度	開始年度	特徴
			知的	視覚	聴覚	肢体	発達	障害者のみ							
18	イベント	SLOW MOVEMENT	○	○	○	○	○	●	●	特定非営利活動法人スローレーベル	神奈川県横浜市	2015年10月3日、15日(不定期)	2015年	<p>&lt;関係者&gt; 専門スタッフ31名、市民パフォーマー14名、市民スタッフ32名による地域密着型の運営により市民のエンパワーメントも図る。</p> <p>&lt;広報&gt; スタイリッシュなWebサイトを通じて、障害者イベントのイメージ転換も図る。</p>	
19	イベント	糸賀一雄記念賞舞台芸術祭	○	○	○	○	○	●	●	糸賀一雄記念賞音楽祭実行委員会事務局	滋賀県東海市 東東芸術文化会館さくら大ホール	2006年11月19日(単年度事業)	2006年	<p>&lt;実績&gt; 周年行事として、200人もの出演者が1本の舞台作品に参加。</p>	
20	活動	Performance For All People.CONVEY						●	●	GONVEY	大阪府大阪市 ダンススタジオPspot14	常時(月に2回)	2000年	<p>&lt;広報&gt; 森田かずよ氏が司会をつとめる福祉番組「バリアフリーラボ」というメディアを有する。バリアフリーな人々とアートやカルチャーについて考える、ファッション的な番組というコンセプト。</p> <p>従来の「福祉」という枠組みを超えて、アートやファッション、カルチャーなど今を生きている人たちへの情報提供をふくめさまざまな人の生き方に触れる番組。障害のある人のみならず高齢者や、それに関わる人、さまざまな人を対象とする。</p> <p>2013年4月より、ソーシャルネットワーク大阪にて月1回(現在は不定期)の配信。Twitterにも運動させ、視聴者との相互コミュニケーションによって番組を進めている。</p> <p>&lt;プログラム(活動内容)&gt; マッチングサービスとして、パフォーミングをしている障害者や障害者が活躍している劇団、障害者でも入れるダンス教室などと、活躍の場を探している人や興味のある人と結びつけるシステムも運用。</p>	
21	イベント	コンヴェイ・ブアブ・プロジェクト						●	●	GONVEY	大阪府大阪市 とんぼりパークウォーク	2015年9月19、20日(年に1回)	2015年	<p>&lt;プログラム(活動内容)&gt; 事前の練習日を7月、8月、9月に設けることでフラダンス未経験者でも参加が可能。</p> <p>&lt;広報&gt; 地元イベントの一環として開催することで、効率的に告知できる。</p>	
22	活動	ジェネシスオブエンターテイメント						●	●	ジェネシスオブエンターテイメント	大阪府大阪市(福)大阪府社会福祉協議会 大阪府ボランティア・市民活動センター内	常時(週に1回)	1997年	<p>&lt;成果・実績&gt; 車いすダンススポーツ全日本選手権大会及びアジア大会チャンピオンや、全国で行われる車いすダンス競技大会にて優勝者を複数輩出している。</p> <p>現在、優勝経験選手たちが全国各地での車いすダンス出演や講演会活動でダンス披露を行い活躍の場を広げている。</p> <p>&lt;資金繰り&gt; 行政からの補助金がいらない民間で運営し活動を展開している市民団体のため、以下のような車いすダンス出演・講師派遣などを通じて活動資金を工面している。</p> <p>■車いすダンス芸術鑑賞公演、公演会、車いすダンス出演、講座・研修会・ワークショップ</p> <p>車いすダンス出演・講演会など講師派遣で得た収入を元に、『誰もが車いすダンスに参加できる』ように11年間、無償～数百円で受講できる車いすダンス教室を年間約100回開催し、人権に関する学習会・障害のある人の就労とヘルパーなどのコーディネートなどの活動を専任職員1名と無償で活動しているメンバー11名で運営を行っている。</p> <p>当会から車いすダンス出演・講師派遣で何うメンバーはすべて、その派遣にて発生する費用を本人がいたくことではなく、その収入のほとんどは無償で活動するメンバーの交通費や生活困難なメンバーへのダンスレッスン費用の助成、ダンス大会出場遠征費などを中心に充てることで活動を継続している。</p>	
23	イベント	★みんなであたらこ愛媛	●	●	●			●	●	特定非営利活動法人 アトリエ心居	愛媛県松山市 総合福祉センター	2015年10月4日(年に1回)	2004年?	<p>&lt;プログラム(活動内容)&gt; 「みんなであたらこ」の名のごとく、全グループの演奏が終わり、参加した太鼓グループの人みんなや、観客の一部の人などが混じって全員で太鼓と竹筒をたたき一体感も味わえる演出。</p>	

# 4.2. 活動一覧 (5/5)

No	類型	名称	主な対象障害				主な対象者 障害者:健常者 のみ:含む	活動形態 鑑賞型:参加型	内容	実施団体	開催地	開催時期/頻度	開始年度	特徴
			知的	視覚	聴覚	肢体								
24	イベント	平成27年度鳥取県障がい者舞台芸術祭「あいサポート・アートとっとり祭り」	○	○	○	○	○	●	●	鳥取県	鳥取県鳥取市 とりぎん文化会館	2015年10月3, 4日	2015年	<p>&lt;目的&gt; 全国の巡回イベントである「第14回全国障がい者芸術・文化祭とっとり大会」の開催をきっかけに、その成果を未来に引き継ぎ、障がい者の芸術文化振興を進めることも目的の一つとしている。</p> <p>&lt;場所&gt; 会場では、以下のようなさまざまなバリアフリー対策を施し、障害のある人ない人、誰でも楽しめる工夫を凝らしている。 ・教護・休憩室、託児室の設置 ・手話通訳・要約筆記が見やすい情報保障席の設置 ・特設ステージの様子を、音声で分かりやすく解説する音声ガイドを用意 ・会場への来場が困難な人のためにインターネットで、フリースペース特設ステージの様子をLIVE中継</p>
25	イベント	Lifemap	○	○	○	○	○	●	●	NPO法人まる	福岡県福岡市 「ゆめアール大橋」	12月 (年に1回)	2007年	<p>&lt;資金繰り&gt; 国内最大のクラウドファンディング「READYFOR」で1,082,000円を集め、資金調達目標(100万円)を達成した。 支援金の額に応じて以下のような特典を提供(以下は支援金100万円のケース) ・サンクスメター ・事業の報告書(約30頁) ・映像作品/DVDのエンドロールに氏名を明記 ・映像作品/DVD ・当法人が運営する「工房まる」のカレンダー ・「Lifemap2013 otto&amp;orabu Live in IMS」DVD</p>
26	活動	★瑞宝太鼓	●					●	●	瑞宝太鼓	長崎県雲仙市 社会福祉法人南高愛隣会(事務局)	常時 (年に100回以上)	1987年	<p>&lt;広報&gt; 2011年、瑞宝太鼓メンバーを主人公にしたドキュメンタリー映画が完成。映画は、「瑞宝太鼓」が新曲に挑戦する姿の中に、彼らの暮らしを描き出す。“障がいがある人もない人も、同じ場所で、普通に暮らす”ことで生まれた絆、ラストを飾るメンバーの演奏をドラマチックに表現。</p> <p>&lt;成果・実績&gt; ～受賞歴(一部)～ 1998年 北九州国際障害者芸術祭 最優秀賞 2006年 長崎県地域文化賞 2008年 サントリー地域文化賞、長崎県民表彰特別賞 2010年 第9回東京国際和太鼓コンテスト優秀賞 2012年 法務大臣感謝状、優秀勤労障害者 長崎県知事表彰 2013年 第27回人間力大賞 文部科学大臣奨励賞 ～海外公演～ 1992年 スペインバリンピック閉会式出演 1997年 ニューヨーク国連本部・ロサンゼルス公演 2000年 シドニーバリンピック・プリズベンフェスタ出演 2004年 スウェーデン・ブルネス INAS-FIDグローバル大会他演奏 2008年 マレーシア「ムヒバセンター」開所祝賀演奏・友好訪問演奏 2012年 ワシントン・ニューヨーク 桜まつり100周年記念イベント演奏</p>

## 4.3.1. 詳細①：日本ろう者劇団

### 団体名

社会福祉法人トット基金

### 設立

1981年

### 所在地

東京都品川区西品川2-2-16

### 理念

黒柳徹子著「窓ぎわのトットちゃん」の著作権を受領し設立した社会福祉法人。  
社会福祉活動に加えて、聞こえる人も聞こえない人も、ともに参加してより高い水準のろう者の文化を創造し、享受することを目標とする。

### 活動内容

#### 【トット文化館(就労継続支援B型)活動】

- ・簡易作業、受注内職作業(小物の袋詰め、封入など)
- ・農園・園芸作業(トット農園での作業)
- ・自主製品作製(エコバッグ、布小物など)

#### 【日本ろう者劇団活動】

- ・公演(自主企画、出張)
- ・手話教室

(HPより抜粋、参照)



# 4.3.1. 詳細①：日本ろう者劇団

## 目的

聞こえる人も聞こえない人も共に楽しめる演劇を通してより多くの方に手話の魅力と演劇の素晴らしさを伝え広めていくことを目指す。

## 活動内容

手話狂言、創作劇、ムーブメントシアター、サインマイム(サイン(手話)とパントマイムの特徴を合わせて作り出された表現方法)等劇団独自のレパートリーを持って全国各地を公演。  
また世界の色々な国から招かれて、手話狂言を披露。  
和泉流狂言師三宅右近師の指導により、昔から継承された狂言特有の動き、運び足をそのままに、手話表現の研究を重ね、古典芸能にふさわしい手話狂言を作っている。

さらには、手話を広めることを目的に手話教室を開催。基本的な手話学習から様々なイメージ表現の指導までを初級、中下級、中上級、上級に分かれて劇団員が実施。

## 対象

- <手話狂言、演劇>  
演者:ろう者20名(劇団員)  
観客:ろう者と健常者が半々
- <手話教室>  
講師:ろう者  
受講生:健常者

## 関係者

- <トット基金理事長>  
黒柳徹子氏
- <手話狂言指導者>  
和泉流狂言師三宅右近師
- <運営>  
常勤職員約8名

## 場所、設備

- <手話狂言、演劇>  
・国立能楽堂(年1回)  
・その他出張公演先  
※稽古はトット基金文化館や狂言指導者の稽古場
- <手話教室>  
・トット基金文化館

## 成果・実績

- ・1981年から活動を開始し、毎年恒例の手話狂言は2016年で35回目となる。  
秋篠宮妃殿下もご来場される。
- ・以下のように海外公演も活発に実施。  
-1983年 伊・パレルモで開催された世界ろう者会議・演劇祭典に参加。  
-1998年 国際交流基金の助成を受け、ロシア・ドイツ・ハンガリー公演。  
-2004年 オリンピック開催を記念して行われた「ギリシャにおける日本文化年2004」に参加し、アテネで「手話狂言」の公演。  
-2013年 仏クランドイユ芸術祭に名誉招待国として招かれ手話狂言披露。あわせてロンドン公演を行う。  
-2015年ローマ、パリにて自主公演(国際手話で演技し好評を博す)
- ・文化庁芸術祭賞、内閣総理大臣表彰などを受賞

## 広報

- ・主にHPを通じた情報発信
- ・手話狂言の集客は以下の通り  
-ろう者:全国からのリピーターが多い  
-健常者:手話教室の受講生やロコミ

## 資金繰り

- ・文化庁国際芸術交流支援事業の拠出
- ・手話狂言、手話教室による収入

## 特徴

- ・2015年からは「はじめての手話」講座を近所の住民向けに実施。トット基金の活動やろう者への理解促進を図る。
- ・就労継続支援B型のような福祉事業と手話狂言のような公益事業を両立することで運営資金を工面している。
- ・手話狂言ではできるだけ毎年新しい曲にチャレンジしている(これまで60曲以上を公演)。

## 課題や今後の展望

- ・ろう者で演技ができる次世代の育成が最大の課題。劇団員を常に募集し、若者を増やし世代交代を図りたい。



## 4.3.2. 詳細②：みんなのダンスフィールド

### 団体名

NPO法人 みんなのダンスフィールド

### 設立

1998年

### 所在地

戸山サンライズ体育館(全国身体障害者総合福祉センター)  
東京都新宿区戸山1-22-1

### 理念

すべての“みんな”が自分のからだで自由に創造し、共に表現を創り合う場の創造。  
同時に、身体表現による inclusive な実感や経験を生かして、それぞれがいろんな形の inclusive fieldを、地域社会で築いていく。

### 活動内容

- ・コミュニティにおけるパフォーマンスの開催
- ・コミュニティにおけるワークショップ開催
- ・定例活動の実施

(HPより抜粋、参照)



## 4.3.2. 詳細②：みんなのダンスフィールド

### 目的

子どもたちを中心としながら広く一般市民を対象として性別や年齢・障害の有無にかかわらず互いの個性を尊重しともに楽しむ身体表現活動を行うことを通して、子どもたちの豊かな発達と成長とともに育みあう包容力のあるインクルーシブな社会の実現に寄与すること。

### 活動内容

#### 1) コミュニティにおけるパフォーマンスの開催

主に公共のホール(練馬文化センター大ホール・客席数1500など)を利用してパフォーマンスを開催し、過去11回の開催で観客動員数は延べ5000名に上る。また、学校や児童館、博物館、地域のイベント等における招待公演も多数行う。

#### 2) コミュニティにおけるワークショップ開催

幼稚園や小・中学校、児童館、大学、特別支援学校、福祉施設、子育てイベント等でワークショップを年間5回程度開催し、互いの可能性を引き出し合いながら共に表現を創ることの楽しさや、の中で芽生える他者とのあたたかい交流を体感できる場づくり。

#### 3) 定例活動の実施

全国障害者総合福祉センター(新宿区)にて月に2回の定例活動を実施している。毎回、本団体のメンバー(2歳から60代までの約40名)に加え、保育者や教員を目指す大学生、芸術/教育/福祉の専門家等が多数見学・体験に訪れ、常に新しい共創活動が繰り広げられている。

### 対象

- ・主に肢体障害者(団体としては特に制限は設けていない)
- ・障害者の親
- ・健常者

### 関係者

- ・東洋英和女学院大学の西教授やゼミ生、かつての教え子によるボランティア
- ・早稲田大学理工学術院三輪教授とゼミ生(心身の働きを考慮した共存のコミュニケーション技術等の研究)

### 場所、設備

主に全国障害者総合福祉センター(新宿区)

### 成果・実績

- ・2003年に韓国で開催された「4th International Symposium of Adapted Physical Activity」にて、本団体の8名のメンバーがインクルーシブ・ダンスのデモンストレーションを行う。
- ・2004年から、早稲田大学理工学術院三輪研究室との交流を始め、互いのフィールドを訪れ合いながら関係を深め、2010年にはイタリアのジェノバで開催されたサイエンスフェスティバルで、同研究室との共同制作のもと、本団体の7名のメンバーが影メディアを使い上演した(招待公演)
- ・2011、2012年には、国立民族学博物館が主催したワークショップにおいてインクルーシブな身体表現パフォーマンスを行い、ワークショップ参加者および一般の来館者約100名が鑑賞した。
- ・2013年から、被災地でのインクルーシブな共創表現ワークショップ『Teawase inclusive workshop in miyagi』(主催:「表現未来の会」)に当団体の20代のメンバー2~3名が参加し、サポート的な役割を担う。2014、2015年には同団体主催の公開ワークショップ「てあわせでしあわせ」にてパフォーマンスを行い、ワークショップ参加者および一般の来場者が200名鑑賞。

### 広報

- ・HPによる情報発信(障害者自身が管理)

### 資金繰り

- ・参加者からの会費
- ・NPO法人としての助成金

### 特徴

- ・活動が常に市民の目線で社会へと開かれている。団体設立当初からメンバー自身のコミュニティでのつながりを活かし、そのコミュニティの特性や人々の生の声に寄り添いながらワークショップやパフォーマンスを展開。誰もが自由に自分を表現し、互いを受け入れ合う場づくりを目指している。
- ・長期にわたり活動が継続できている理由は「インクルーシブ・センス」の追及にある。インクルーシブな活動のモデルとして欧州からも評価されているが、障害の有無に関係なく個人の個性がぶつかり合うことで創造的な表現が生まれる場の雰囲気づくりを大事にしている。ありのままの自分で主体的な存在として輝ける場として大きな意味や価値を見いだしている。

### 課題や今後の展望

- ・活動の仕組み化が課題。このような取組が全国のあらゆる地域で実施されればより多くの障害者や健常者が垣根なく交流できインクルーシブな社会の実現につながると考えている。
- ・2020年を控え、障害の有無や年齢、性別、経験の有無を超えて多様な人々を包み込める活動でもあるダンスの持つ社会的役割を実践する先駆的な存在として、長年の経験を活かしながら、さまざまなかたちでインクルーシブな身体表現の意義や可能性を積極的に社会へ発信していく。
- ・メンバーの多くは、乳幼児期から当たり前のようにさまざまな人と自然に関わり、共に表現を創り合う経験を積み重ねてきた。現在、その経験を活かしながら、メンバー自身が各々の特性を活かしながら、インクルーシブな身体表現活動の推進に取り組んでいくための基盤作りを行っている。
- ・2013年より宮城県石巻市・東松島市との人々との交流を始めている。いかなる状況においても人々を等しく包みこみ、自己を表現しようという未来への一歩を共に歩む活動でありたいという願いとともに、それを待っている世界中の人々に向けて、今後は活動範囲の拡大により一層の力を注いでいく。また、講演会や出版活動も視野に入れながら、身体表現活動と接点がなかった人々(例えば、外出が極めて困難な人々など)に対しても、積極的なアプローチを試みていきたい。

(Webサイト「CANPAN FIELD」より一部抜粋)

## 5. 一考察

---

## 5. 一考察

---

今回の調査を通じて明らかになった課題とそれに対する対策案を考察する。

### 【課題】

#### ①団体間の連携

各団体が個別に活動し、横の連携が十分ではないため、各団体の優れた活動が共有されていなかったり、活動の広がりにも限界がある。

#### ②組織の在り方

活発に活動している団体の多くは、情熱を持ったリーダーに支えられている属人的組織であるため、活動の持続性が危惧される。

#### ③障害者間の交流

多くの団体が対象障害を限定していないが、参加する障害者の症状は偏る傾向にあるため、異なる障害をもつ者同士の交流が十分ではない。

#### ④情報発信

Webで情報公開している団体は東京などに偏っている。ネット社会において地方の活動が地元の障害者へ十分に伝わっていない可能性がある。

#### ⑤社会の受け入れ

団体の中ではいきいきと活動できても、社会に戻ると周囲の理解や設備のバリアが障害者の社会活動を阻害している。

### 【対策案】

#### ①団体間の連携

様々なジャンルを包括した、団体活動を集約するような情報プラットフォームをつくり、全国の団体が成功モデルを共有できる仕組みをつくる。

#### ②組織の在り方

組織強化等の検討とその支援体制づくり(一例:①の成功モデルなどをもとに障害者と共にガイドを作成し、活動を担える人材育成のシステム構築等)。

#### ③障害者間の交流

アーツは様々な障害者をつなぐメディアであることを認識し、その接点となるプログラムの開発及び情報交換連絡会の形成等で交流を促す。

#### ④情報発信

①のようなポータルサイトをネットの様々なタッチポイントを駆使して発信すると同時に、各団体も自らネット発信できるようなガイドを提示する。

#### ⑤社会の受け入れ

2020年の東京オリンピック・パラリンピックを機に、日本から世界にソーシャルインクルージョンの範を示せるような準備や社会啓発を進める。

■2015年（平成27年）11月17日 内外教育 第3種郵便物認可

## 表現活動通じ、生きる力育む

第30回時事通信社「教育奨励賞」努力賞受賞校⑧

### ●神奈川県立麻生養護学校

川崎市麻生区の閑静な住宅地にある神奈川県立麻生養護学校（奥野康子校長、児童生徒数321人、うち高等部170人）には、肢体不自由教育部門と知的障害教育部門があり、それぞれが小学・中学・高等の各部を持ち、県内でも有数の規模となつていいる。2006年4月の開校時から高等部はコース制とし、就業支援、自立支援の両コースのほか、表現支援コースを設置している。クラブ活動としての音楽や美術は珍しくないが、表現活動を正規のカリキュラムとして組み込んでいるのは全国でもあまりないという。

自立のための教育や、将来仕事に就くための模範的な労働体験などは、障害のある子どもにはもちろん必要であり重要だ。だが、表現活動を選択肢の一つとして設定したのは、好きなことをすることで自分に自信を持ったり、人とコミュニケーションをするこの大切さを学んだりし、社会の中で生きる力を身に付けさせたいとの狙いがある。奥野校長は、県立高津養護学校（川崎市）の校長から、15年4月に就任したばかりだが、開校2年の05年11月から開校準備スタッフの一員として、どのような教育プログラムを組んでいくか、週1



度のペースで話し合いを重ねた。そうした中で、表現支援コースのイメージが具体化していったという。「特に不登校の子とか、ある一定の人しかコミュニケーションがとれない子たちは、自分が好きなことを切り口に教育活動をする中で、いろいろな取り組みができる」と考えた」と振り返る。



アート美術グループの授業風景

開校当初は、保護者から卒業後の生活にどう結び付くのか、表現支援コースそのものに不安の声が漏れることもあったというが、それは相違なかったようだ。教員からの指示を理解するのが困難な自閉症の生徒が、本物の楽器を取り扱うことにより、物の扱い方が丁

び付くのか、表現支援コースそのものに不安の声が漏れることもあったというが、それは相違なかったようだ。教員からの指示を理解するのが困難な自閉症の生徒が、本物の楽器を取り扱うことにより、物の扱い方が丁

### 美術グループは作品販売も

表現支援コースには「アート美術グループ」と「アート音楽グループ」の二つがあり、毎週2回、火曜日と金曜日にそれぞれ「ワーク・アート」の特別授業が行われている。

美術グループには、現在7人が在籍。自由制作では、表現材料や描き方、題材などは生徒自身が選び、自由なスタイルで造形活動を行う。教員は技術的なアドバイスも行うが、あくまで生徒がストレスなく制作に没頭できる環境を整え、自主性や個性を引き出すことに重点を置いている。記者が見学に訪れた日の授業でも、生徒が画用紙に黒々とペンを走らせる中、生徒の邪魔にならないよう気遣いながら静かに見守る教員の姿が印象的

だった。

校内には、「今週の1枚」と題する展示コーナーがあり、美術グループの生徒が描いた絵を毎週1枚選んで目立つ場所に展示しているもので、教員や児童生徒らが自由にコメントを投稿できるようなりしてある。

「どんなに素晴らしい作品ができたとしても、誰かに見てもらわなければ意味がない」。単に作品を作ったでそれでおしまいとすることはなく、それを他人に見てもらふことによつて初めて「表現」としての行為が成り立つのだという奥野校長の考えがそこにはある。

学校内や近所の公民館などでの展示はもちろんのこと、生徒の作品を基にしたイラストをプリントしたTシャツやバッグ、メモ帳、ポストカード



アート音楽グループの授業風景。特別の補助員で弓が弦に正しく当たるよう工夫してある

などのオリジナルグッズを制作し、近隣の福祉施設「青葉メゾン」（横浜市）内にあるアンテナショップなどで販売している。アイヌ語で「つくる」という意味

を持つ「アンカラ」から、同グループの作品には「アトリエ・アンカラ」というブランド名が付けられている。

一方、「アート音楽グループ」の在籍者は現在13人。教員5人が自配りをしながら指導している。例えばバイオリンの演奏では、弓が弦に正確に当たるように、ガイドの役割を果たす針金製の特殊な補助員を装着する。また、4本ある弦の種類を区別しやすくするため、弦を押さえる指板と楽器に同じ動物のシールを貼るなど、視覚的な補助により、生徒が自分の力で演奏できるように導く細かい工夫が随所に見られる。

世界的バイオリニストの五輪みどりさんが立ち上げたNPO法人「ミュージック・シェアリング」の「楽器指導支援プログラム」（養護学校特別プログラム）から08年に改称）により、バイオリンとフルートが無償で貸与されている。

毎週火曜日は、ミュージック・シェアリングから派遣された講師によるレッスンに加え、09年度からは新たに、同じ区内にある昭和音楽大学の協力により、毎週金曜日に同大学の学生がレッスンに訪れ模範演奏を披露するなど、専門家による充実した指導体制が敷かれている。音楽グループの活動がOB・OG会として卒業後も続いているのは、生徒にとって学校での音楽体験がいかに大きな意味を持つものであったかを示していると言っている。

文化祭を含めて年間5、6回のコンサート活動のほか、毎週金曜日は校内のロビーでミニコンサート

### もつと外とのつながり

「展覧会やコンサートなどのように形のある定期的なものとは別に、もつと日常的に『外』とつながれるようなところがある。例えばどこかの会社から、あの子の絵をぜひうちの包装紙とかロゴに使いたいというオーダーを受けて提供するか……」

音楽グループには、市民コンサートや近所の小中学校のイベントへの参加依頼がたまにあるといえ、奥野校長にはまだ物足りない。「ここで音楽や絵に取り組んでいる子どもがいるということをもつともつと知ってもらいたい。そして子どもたちが地域に出て行って、存在を知ってもらい、一緒に生活していくにはどういう方法があるかを考えていきたい。共生社会の実現に向けてこれからも地道に活動を続ける構えだ。

■2015年（平成27年）11月17日 内外教育 第3種郵便物認可

（天田昌機＝横浜総局）

# あとがき

---

今回はインターネット上の情報を中心とした一次調査であったが、今後は、当調査で得られた仮説に基づき、より詳細に各団体の活動をリサーチすることが求められる。

その調査の過程で各団体とのネットワークを強化することで、好事例や課題の共有、活動の対外発信など部門を横断したプラットフォームの形成につながることが見込まれる。

また今回の調査でも明らかになったが、各部門(美術・音楽・パフォーミングアーツ)で参加しやすい対象障害が異なるため、あらゆる障害者が芸術活動に触れられる社会を考える上では各部門が補完し合えるような全体構想が必要であろう。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックを一つの契機に、社会のあらゆる人びとが芸術活動を通じて、生きる力や喜びを得られる社会にしていければと切に願う。

# 共同研究「国内における障害者による芸術活動の概要」報告書

発行者：日本財団パラリンピック研究会  
東京藝術大学COI「障がいと表現研究」グループ

発行日：2016年3月